

第4期草津市地域福祉計画策定に向けた

アンケートの調査結果

報告書

令和2年7月

草津市

目 次

I	調査概要	1
1	調査目的	1
2	調査方法と内容	1
	（1）調査対象	1
	（2）配布数・有効回収数・回収率	1
	（3）調査方法	1
	（4）調査時期	1
	（5）主な調査項目	1
	（6）数値等の基本的な取り扱いについて	2
II	調査結果	3
1.	あなた自身のことについて	3
2.	地域とのかかわりについて	6
3.	地域や福祉に関する参加状況や考えについて	11
4.	災害への備えや災害時の対応について	13
5.	不安や悩み、相談先について	16
6.	福祉への関心や福祉活動について	19
7.	福祉に関するしくみや制度について	23
8.	福祉に関する施策全般について	26
III	その他意見	27
IV	自由記述	38
V	調査票	57

I 調査概要

1 調査目的

草津市では、草津市社会福祉協議会をはじめ皆様と共に、みんなで地域社会を支え合いながら、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるまちの実現をめざして、福祉の総合的な取組を推進しています。

福祉の総合的な取組やあり方を示す「第3期草津市地域福祉計画」の計画期間が今年度で終了することにもない、次期計画策定の基礎資料とするために、日頃から福祉活動に取り組んでいただいている皆様の福祉に関するお考えやご意見をおうかがいしました。

2 調査方法と内容

(1) 調査対象

- 調査対象：まちづくり協議会、学区社会福祉協議会、民生委員・児童委員協議会、町内会、社会福祉関係団体などの関係者

(2) 配布数・有効回収数・回収率

- 配布数：689票
- 有効回収数：561票
- 回収率：81.4%

(3) 調査方法

郵送による配布・回収

(4) 調査時期

令和2年6月20日～7月3日

(5) 主な調査項目

- ・あなたの自身ことについて
- ・地域とのかかわりについて
- ・地域や福祉に関する参加状況やお考えについて
- ・災害への備えや災害時の対応について
- ・不安や悩み、相談先について
- ・福祉への関心や福祉活動について
- ・福祉に関するしくみや制度について
- ・福祉に関する施策全般について

（６）数値等の基本的な取り扱いについて

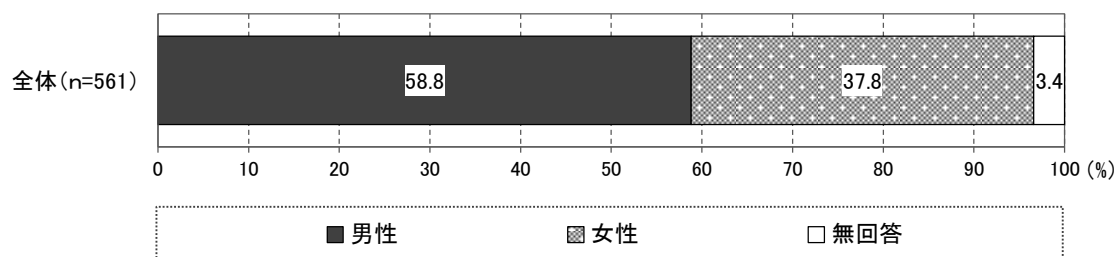
- ・比率は全て百分率（％）で表し、小数点以下第２位を四捨五入して算出しています。したがって、合計が 100％を上下する場合があります。
- ・基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率はnを 100％として算出しています。（回答者総数または該当者数）
- ・質問の終わりに【MA】（multiple answers）とある問は、１人の回答者が２つ以上の回答をしてもよい問であるため、各回答の合計比率は 100％を超える場合があります。
- ・文中、グラフ中の数値や選択肢の文言は、一部省略・簡略化してあります。また、割合が 0％であった箇所や無回答の数値については、基本的に省略しています。
- ・質問の選択肢は、基本的に「 」で表していますが、選択肢を２つ合わせて示す場合は“ ”で表してあります。

Ⅱ 調査結果

1. あなた自身のことについて

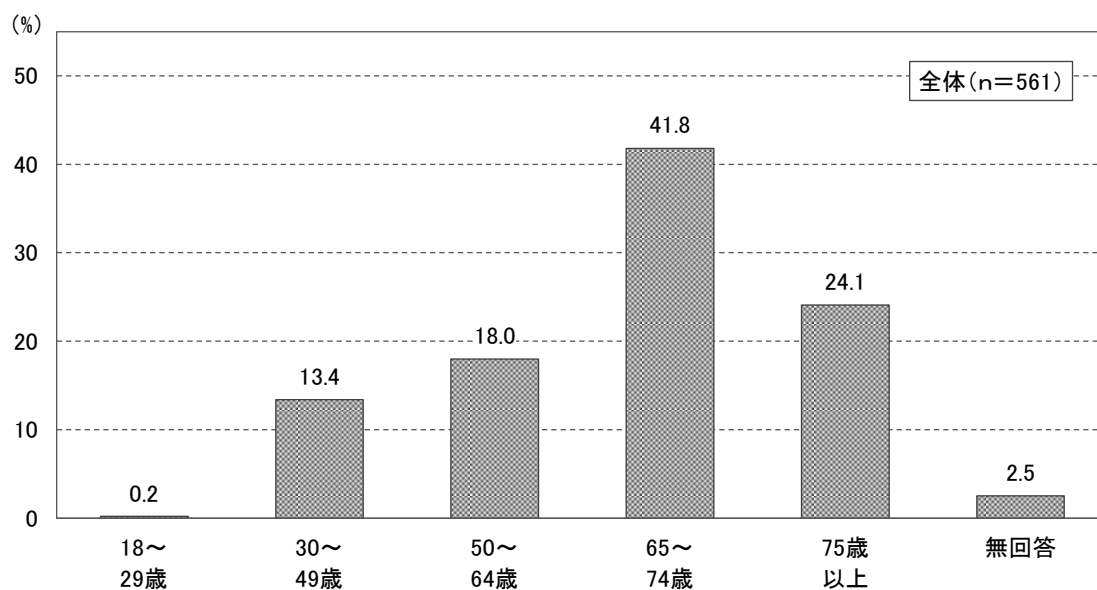
問1 回答者の性別

「男性」が58.8%、「女性」が37.8%となっています。



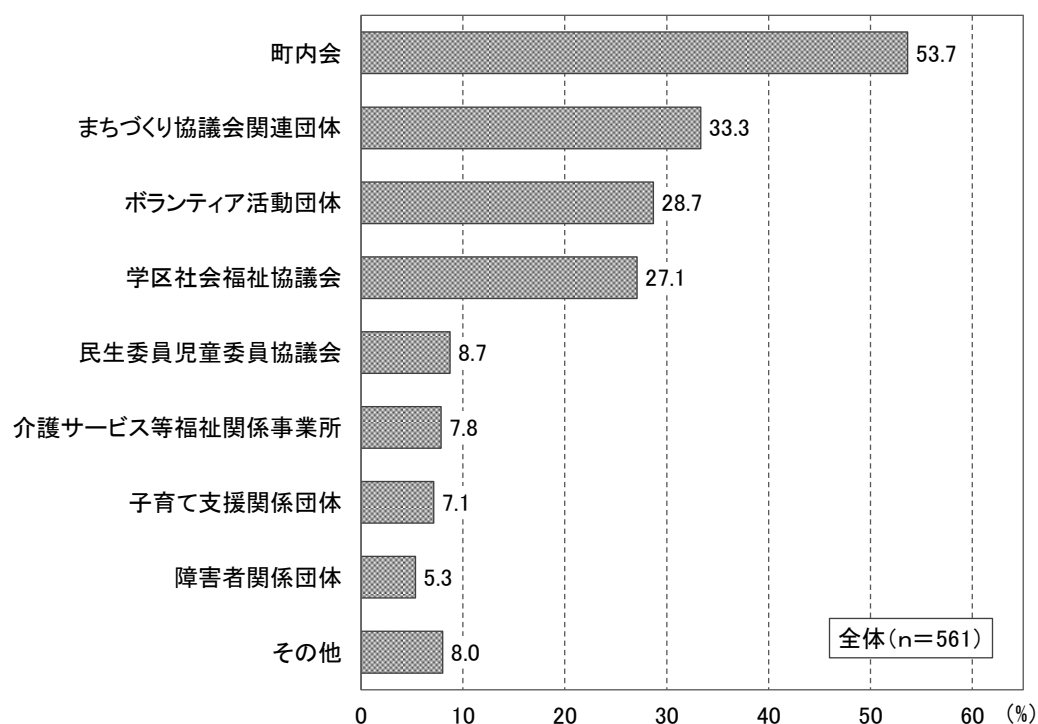
問2 回答者の年齢

「65～74歳」が41.8%と最も高く、次いで、「75歳以上」(24.1%)、「50～64歳」(18.0%)の順となっています。



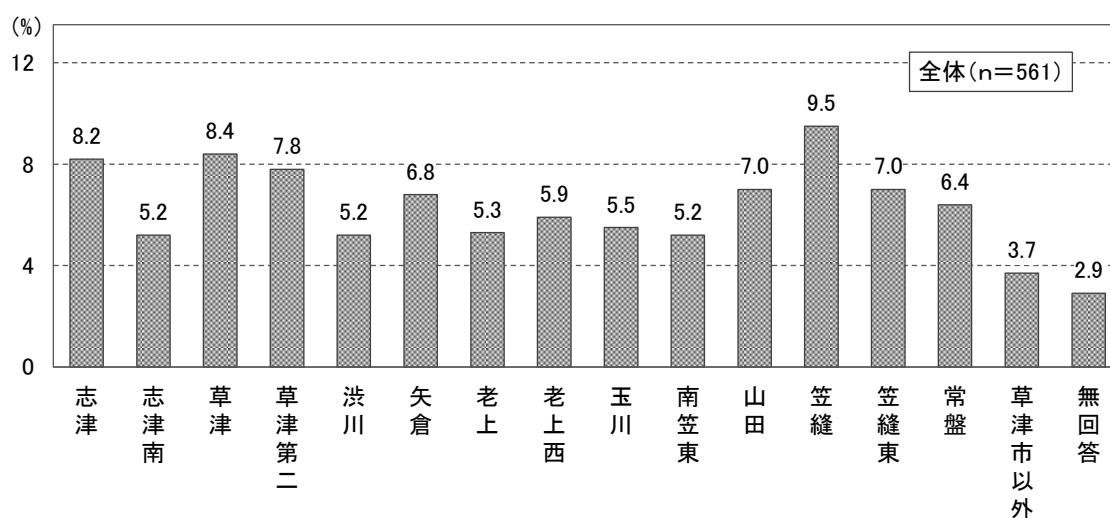
問3 回答者の活動（所属）【MA】

「町内会」が53.7%と最も高く、次いで、「まちづくり協議会関連団体」(33.3%)、「ボランティア活動団体」(28.7%)の順となっています。



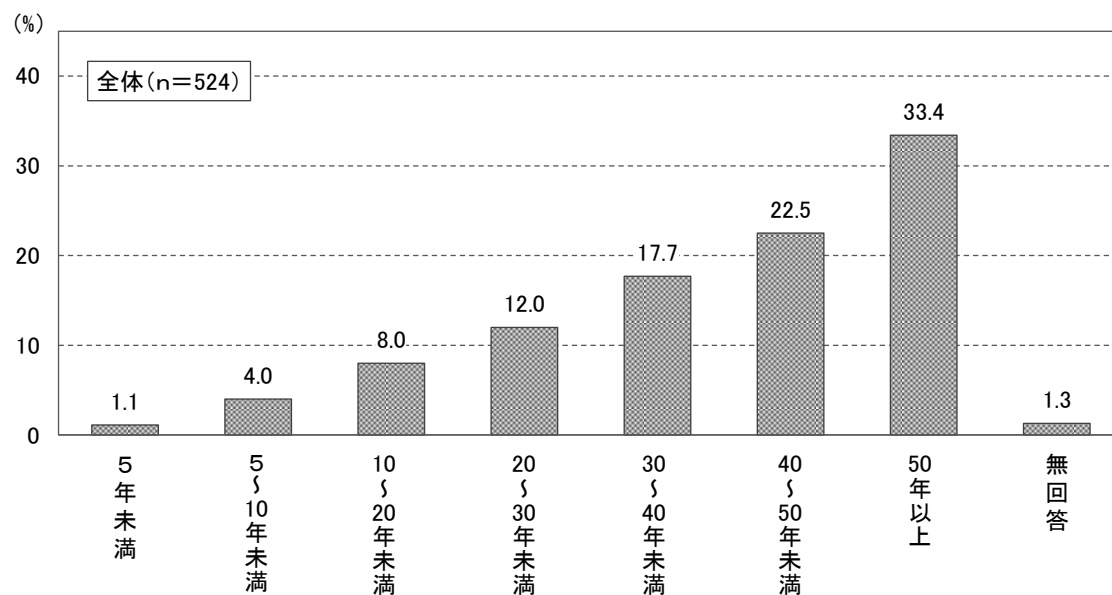
問4 回答者の居住地区（小学校区）

「笠縫小学校区」が9.5%と最も高く、次いで、「草津小学校区」(8.4%)、「志津小学校区」(8.2%)の順となっています。



問5 回答者の居住年数

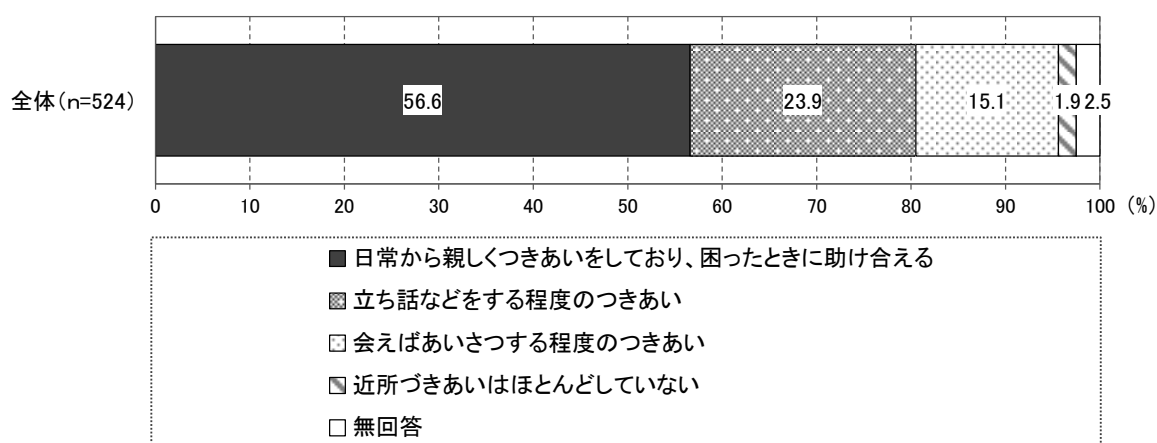
「50年以上」が33.4%と最も高く、次いで、「40～50年未満」(22.5%)、「30～40年未満」(17.7%)の順となっています。



2. 地域とのかかわりについて

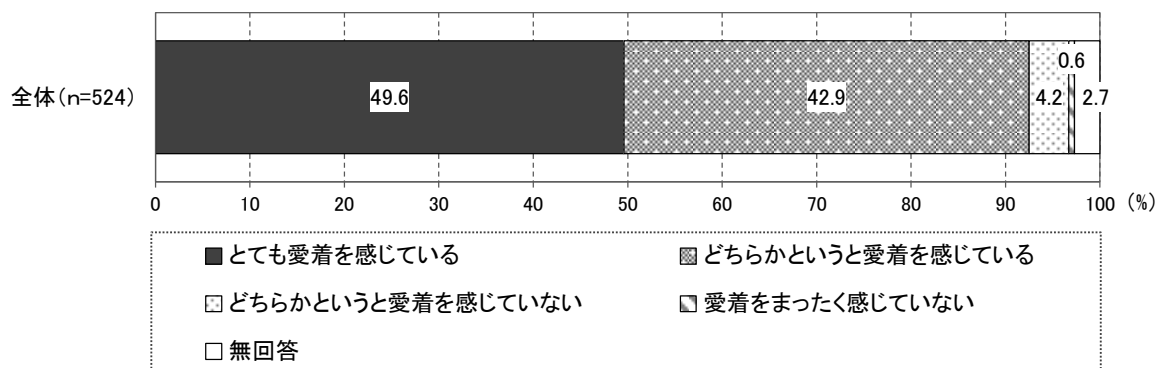
問6 あなたの近所づきあいの程度はどのようなものですか。

「日常から親しくつきあいをしており、困ったときに助け合える」が 56.6%と最も高く、次いで、「立ち話などをする程度のつきあい」(23.9%)、「会えばあいさつする程度のつきあい」(15.1%)の順となっています。



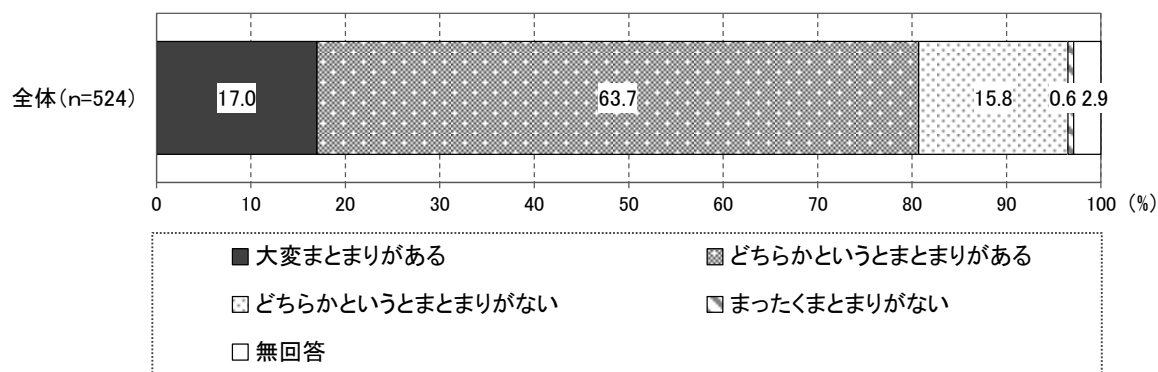
問7 お住まいの地域にどの程度の愛着を感じていますか。

「とても愛着を感じている」が 49.6%と最も高く、次いで、「どちらかというとな愛着を感じている」(42.9%)、「どちらかというとな愛着を感じていない」(4.2%)の順となっています。



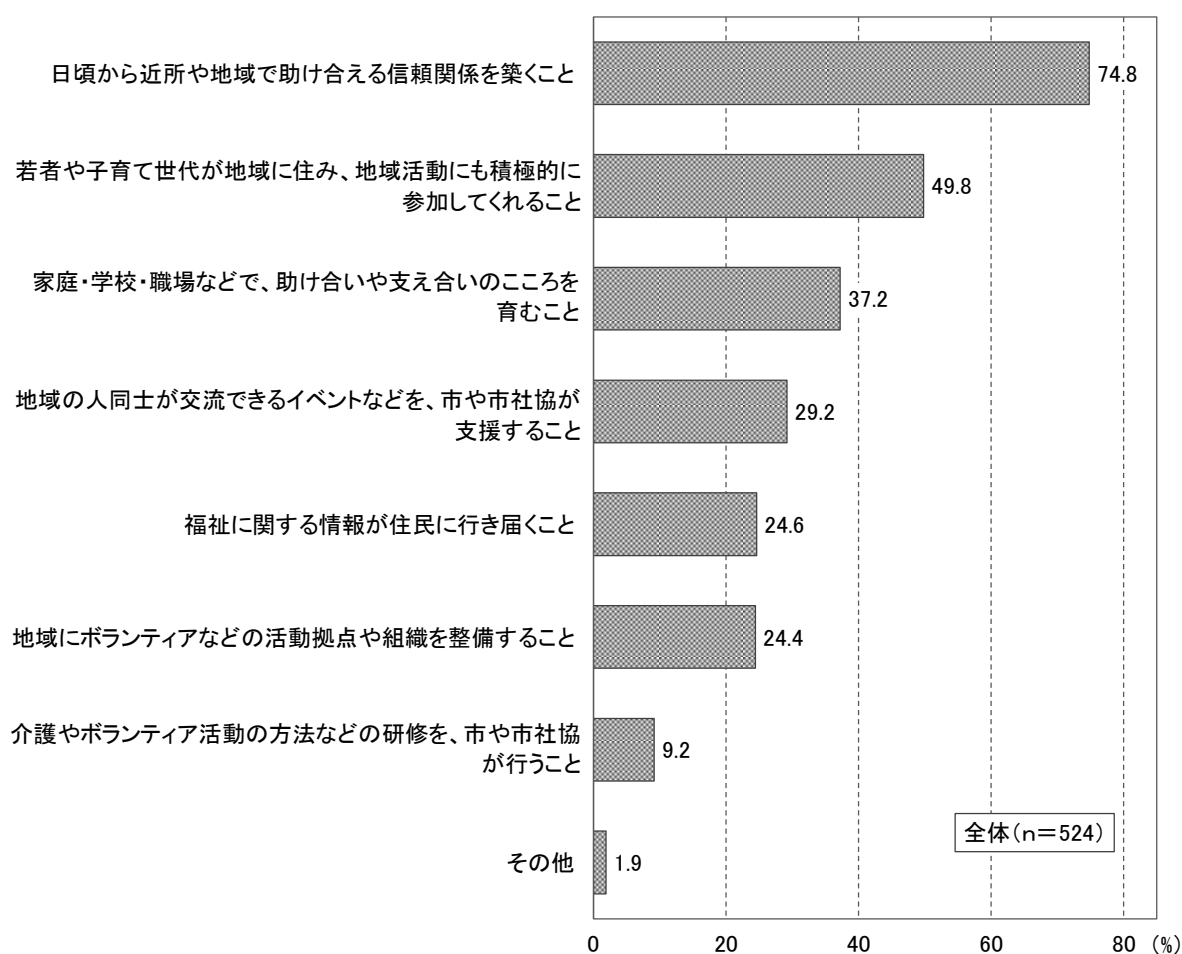
問 8 お住まいの地域の住民活動において、住民相互のまとまり具合を、どのように感じていますか。

「どちらかというまとまりがある」が 63.7%と最も高く、次いで、「大変まとまりがある」(17.0%)、「どちらかというまとまりがない」(15.8%) の順となっています。



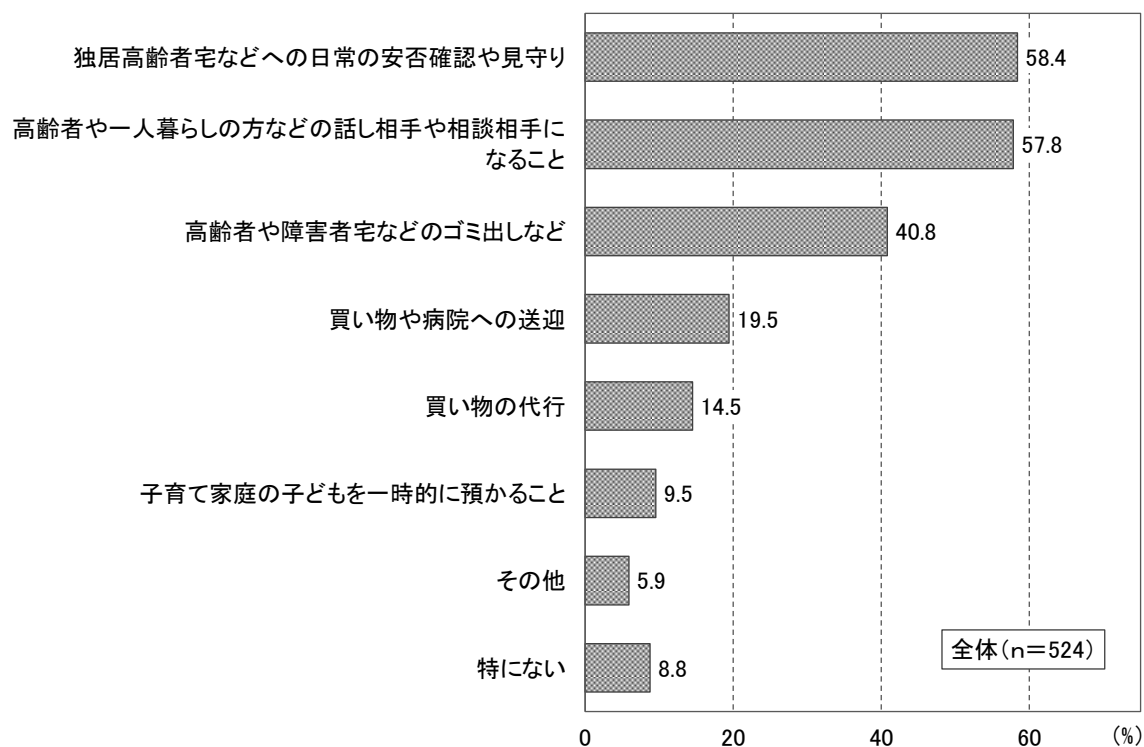
問 9 地域における助け合いや支え合いの活動を活発にするためには、どのようなことを充実すべきとお考えですか。【MA】

「日頃から近所や地域で助け合える信頼関係を築くこと」が 74.8%と最も高く、次いで、「若者や子育て世代が地域に住み、地域活動にも積極的に参加してくれること」(49.8%)、「家庭・学校・職場などで、助け合いや支え合いのこころを育むこと」(37.2%)の順となっています。



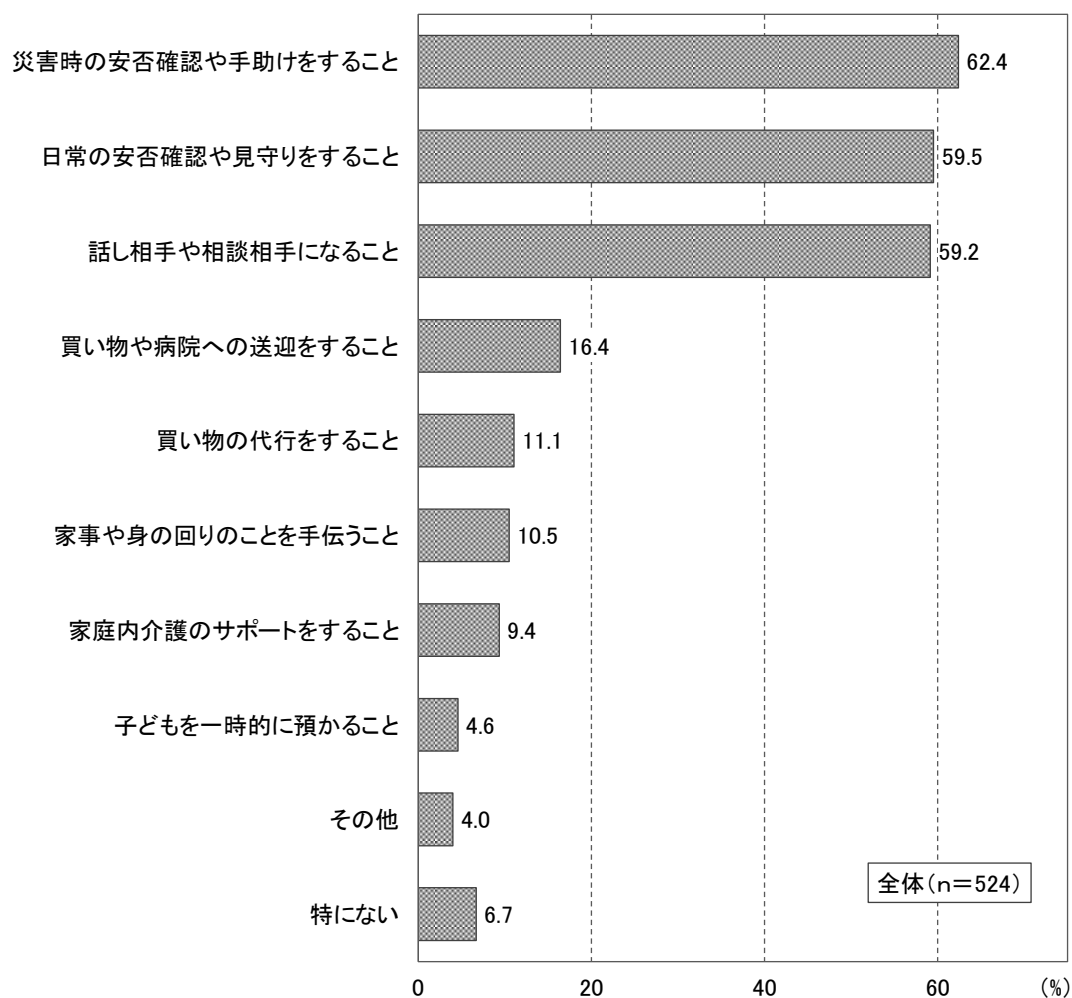
問 10 近所や地域のつきあいやかわりにおいて、困っている方がいれば手助けしたいと思うのは、次のうちどれですか。すでにされていることがあれば、それも選んでください。【MA】

「独居高齢者宅などへの日常の安否確認や見守り」が 58.4%と最も高く、次いで、「高齢者や一人暮らしの方などの話し相手や相談相手になること」(57.8%)、「高齢者や障害者宅などのゴミ出しなど」(40.8%)の順となっています。



問 11 近所や地域のつきあいやかかわりにおいて、特に求められていると感じられることは、次のうちどれですか。【MA】

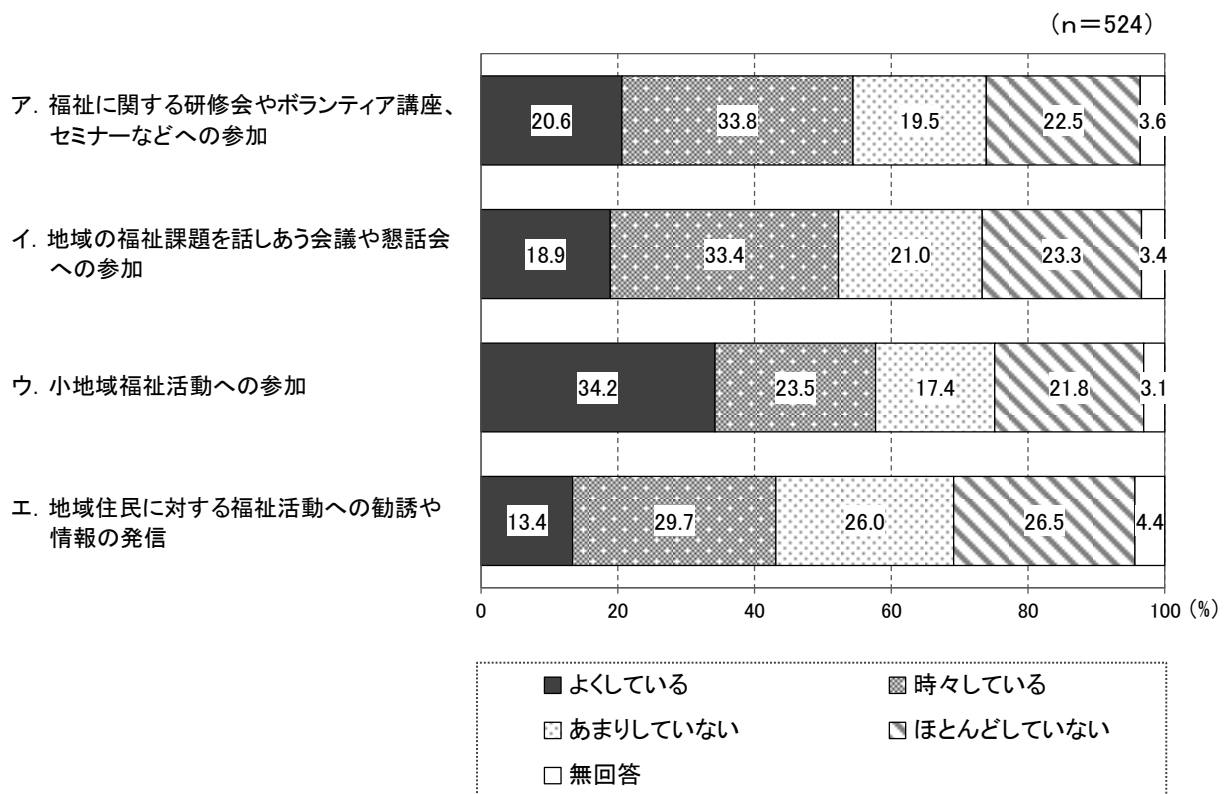
「災害時の安否確認や手助けをすること」が 62.4%と最も高く、次いで、「日常の安否確認や見守りをする事」(59.5%)、「話し相手や相談相手になること」(59.2%) の順となっています。



3. 地域や福祉に関する参加状況や考えについて

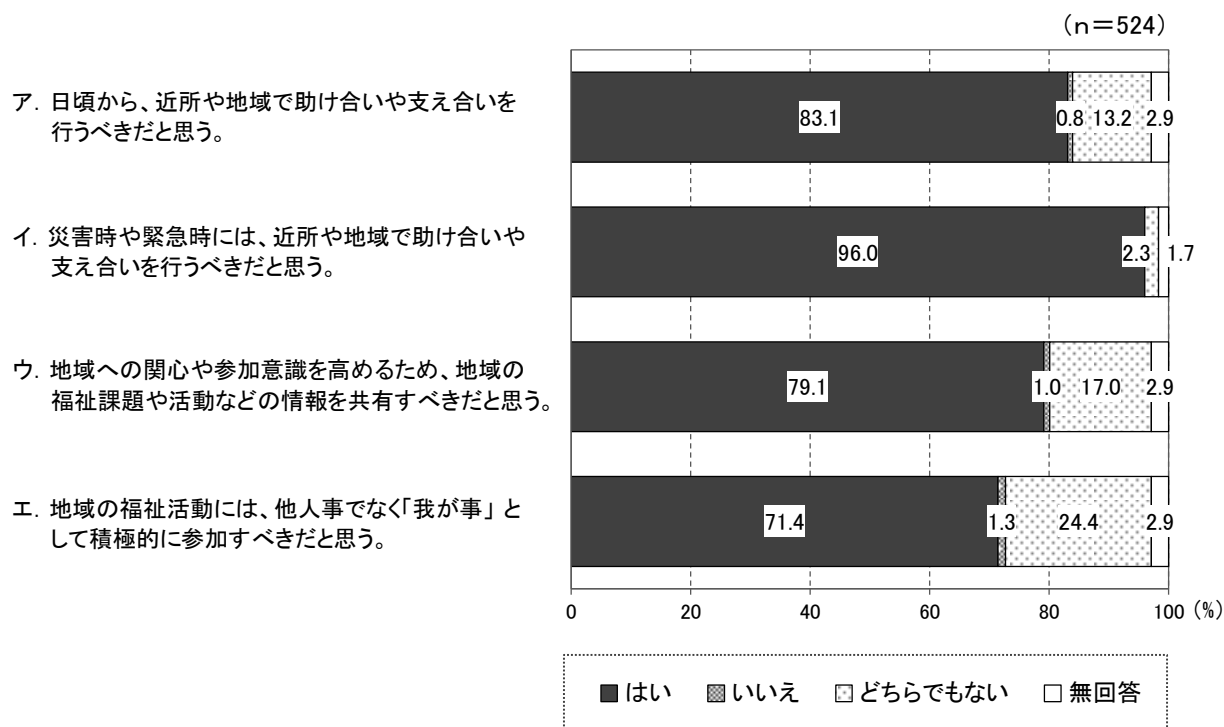
問 12 次の項目について、あなたの参加状況や活動状況をお答えください。

「よくしている」では、「小地域福祉活動への参加」が34.2%と最も高く、次いで、「福祉に関する研修会やボランティア講座、セミナーなどへの参加」(20.6%)、「地域の福祉課題を話しあう会議や懇話会への参加」(18.9%)の順となっています。



問 13 次の項目について、あなたはどのようにお考えですか。

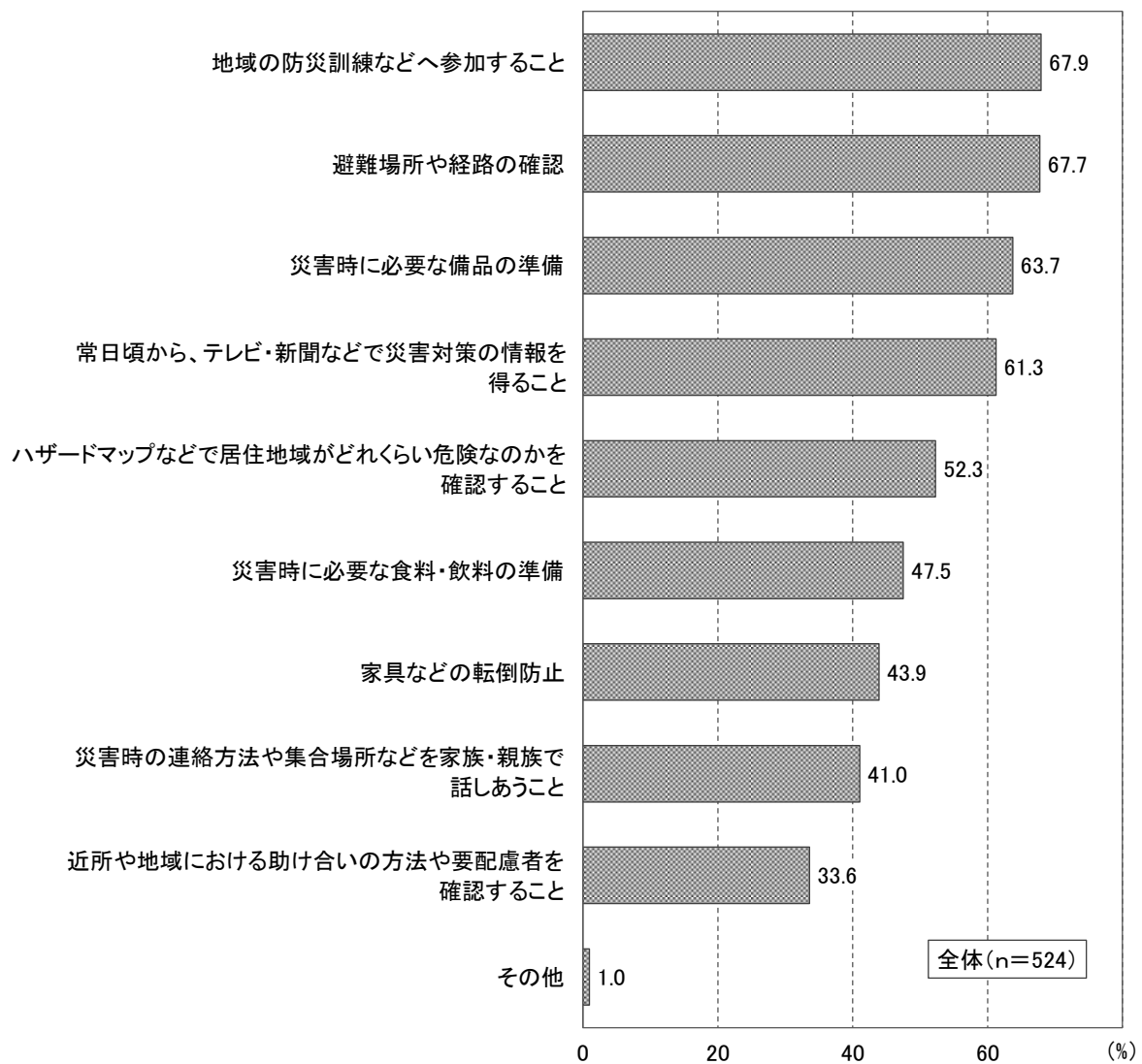
「はい」では、「災害時や緊急時には、近所や地域で助け合いや支え合いを行うべきだと思う」が96.0%と最も高く、次いで、「日頃から、近所や地域で助け合いや支え合いを行うべきだと思う」(83.1%)、「地域への関心や参加意識を高めるため、地域の福祉課題や活動などの情報を共有すべきだと思う」(79.1%)の順となっています。



4. 災害への備えや災害時の対応について

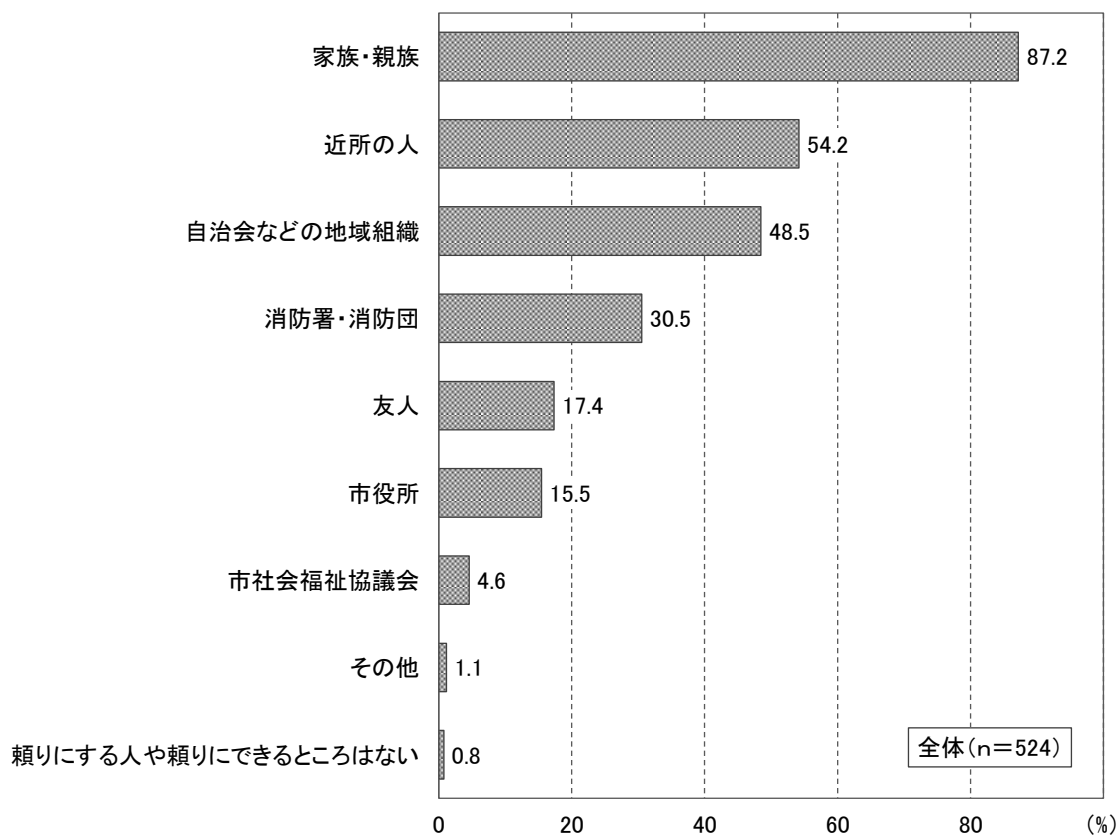
問 14 あなたは、地震や風水害、火災などの災害に対して、どのような備えを行っていますか。【MA】

「地域の防災訓練などへ参加すること」が67.9%と最も高く、次いで、「避難場所や経路の確認」(67.7%)、「災害時に必要な備品の準備」(63.7%)の順となっています。



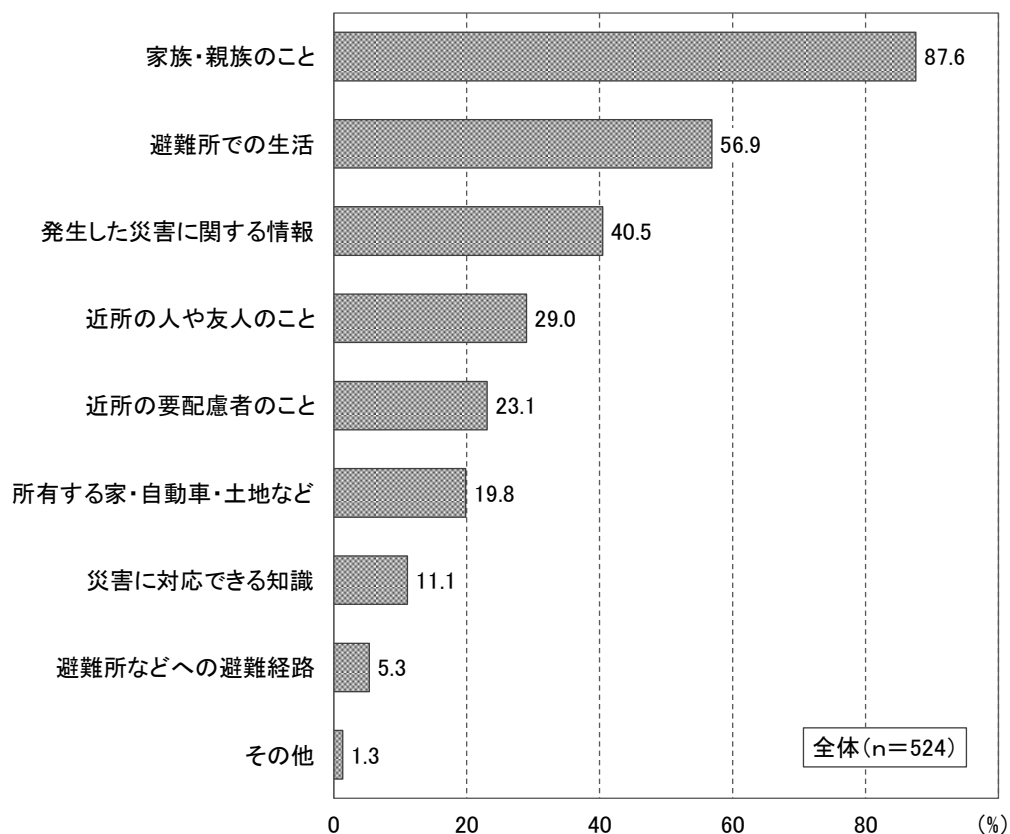
問 15 あなた自身が災害にあわれたとき、主にだれ（どこ）を頼りにしますか。
【MA】

「家族・親族」が87.2%と最も高く、次いで、「近所の人」(54.2%)、「自治会などの地域組織」(48.5%)の順となっています。



問 16 あなた自身が災害にあわれたとき、どのようなことを不安・心配に思いますか。【MA】

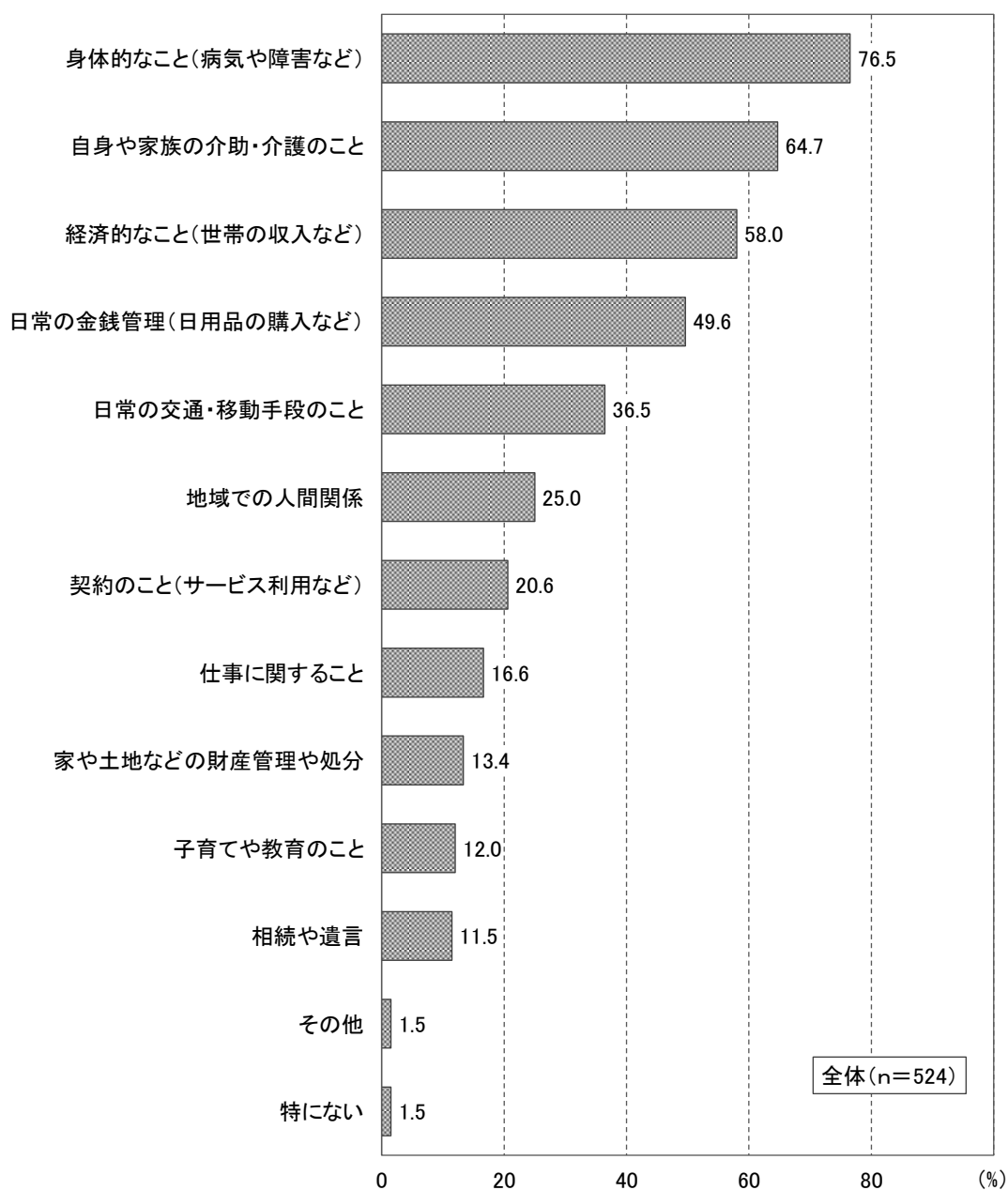
「家族・親族のこと」が87.6%と最も高く、次いで、「避難所での生活」(56.9%)、「発生した災害に関する情報」(40.5%)の順となっています。



5. 不安や悩み、相談先について

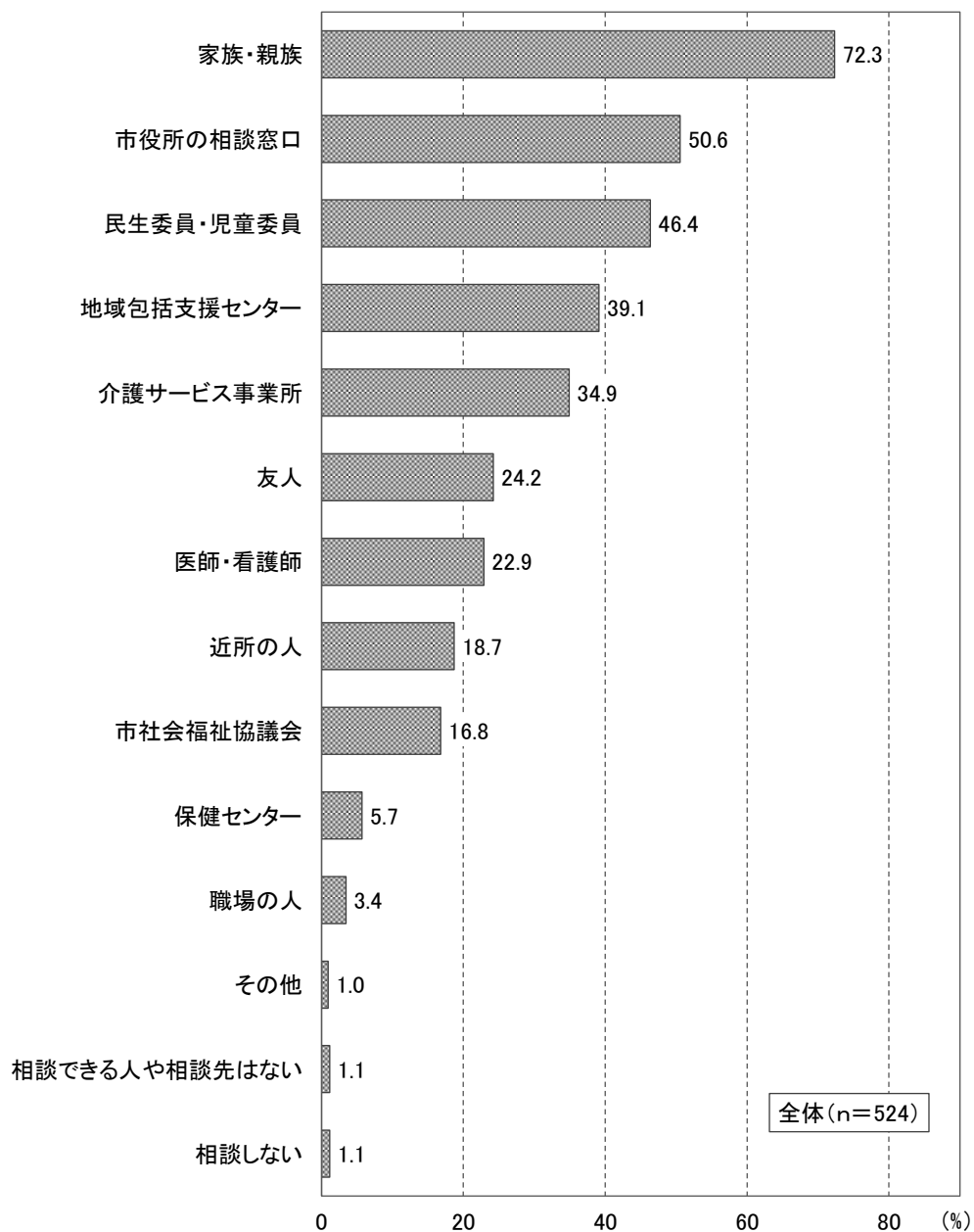
問 17 要介護者や生活困窮者などの方が、不安に思っている点や悩んでいる点はどこにあると思いますか。【MA】

「身体的なこと（病気や障害など）」が76.5%と最も高く、次いで、「自身や家族の介助・介護のこと」（64.7%）、「経済的なこと（世帯の収入など）」（58.0%）の順となっています。



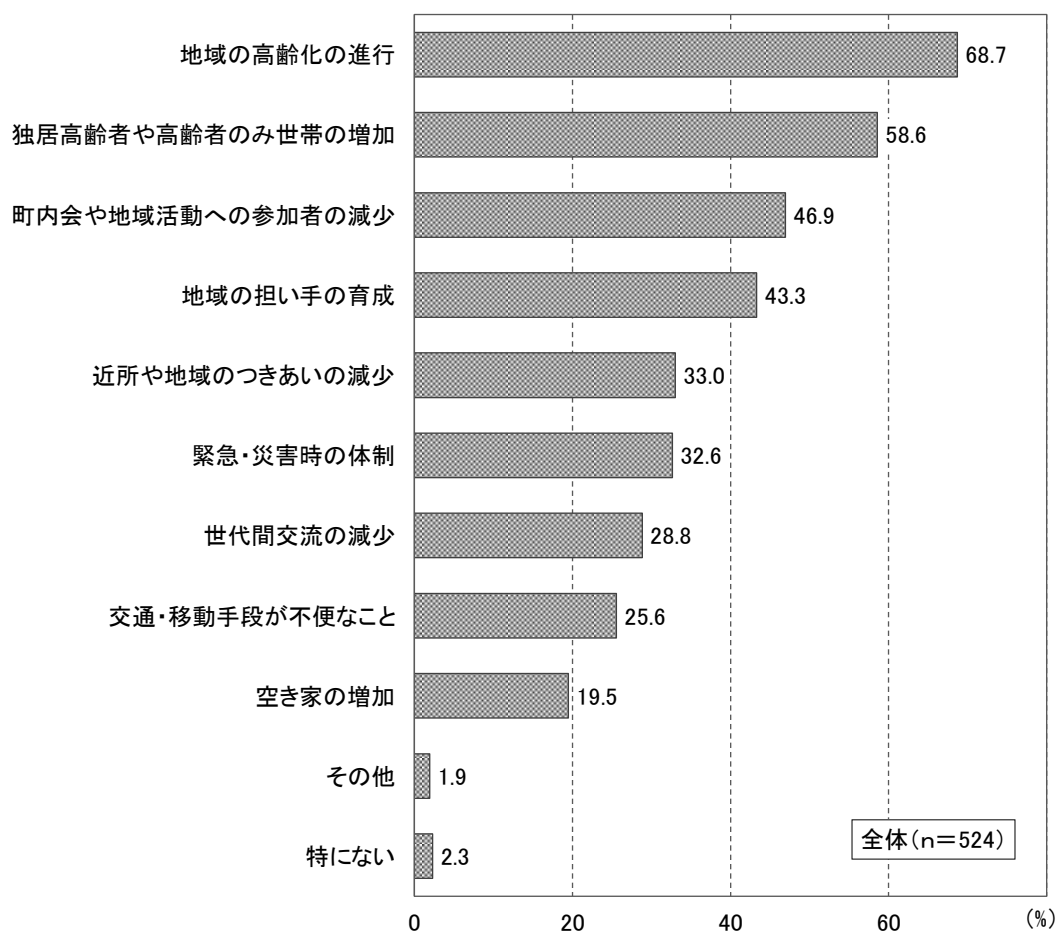
問 18 悩みや不安があるとき、要介護者や生活困窮者などの方は、だれ（どこ）に相談すると思いますか。【MA】

「家族・親族」が72.3%と最も高く、次いで、「市役所の相談窓口」(50.6%)、「民生委員・児童委員」(46.4%)の順となっています。



問 19 あなたは、お住まいの地域について、どのようなことを不安・心配に思っていますか。【MA】

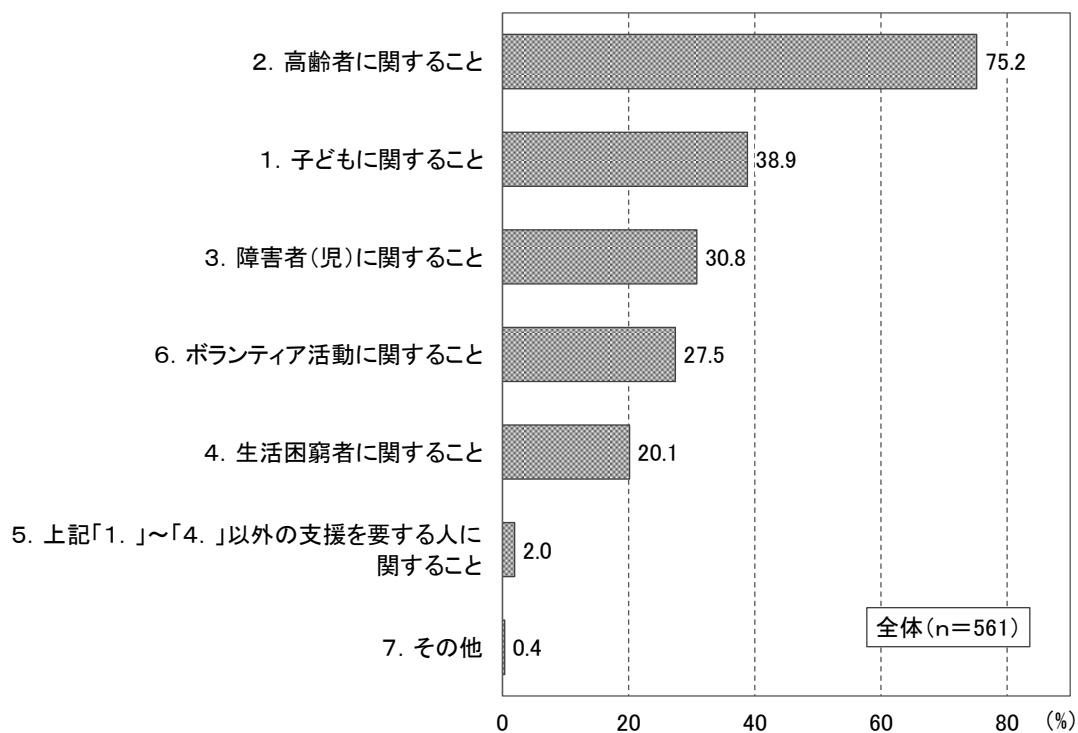
「地域の高齢化の進行」が 68.7%と最も高く、次いで、「独居高齢者や高齢者のみ世帯の増加」(58.6%)、「町内会や地域活動への参加者の減少」(46.9%) の順となっています。



6. 福祉への関心や福祉活動について

問 20 あなたは福祉のどの分野に関心がありますか。【MA】

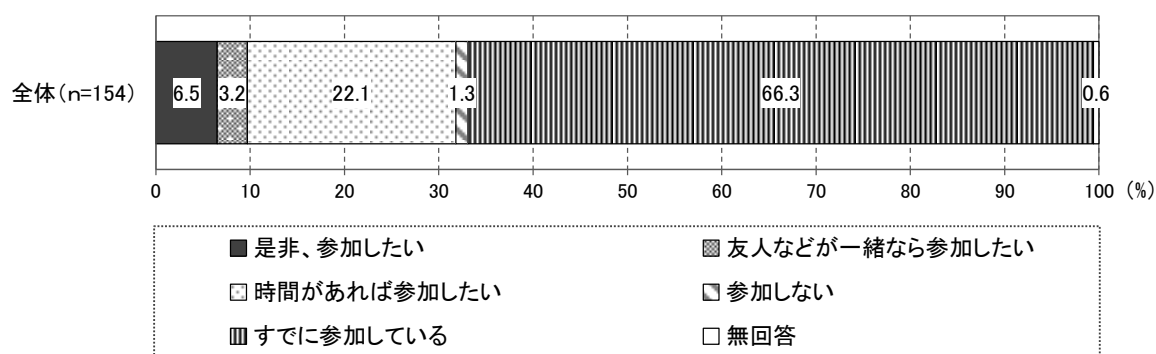
「高齢者に関すること」が75.2%と最も高く、次いで、「子どもに関すること」(38.9%)、「障害者(児)に関すること」(30.8%)の順となっています。



【問 20 で「6. ボランティア活動に関すること」に○を付けた方のみ】

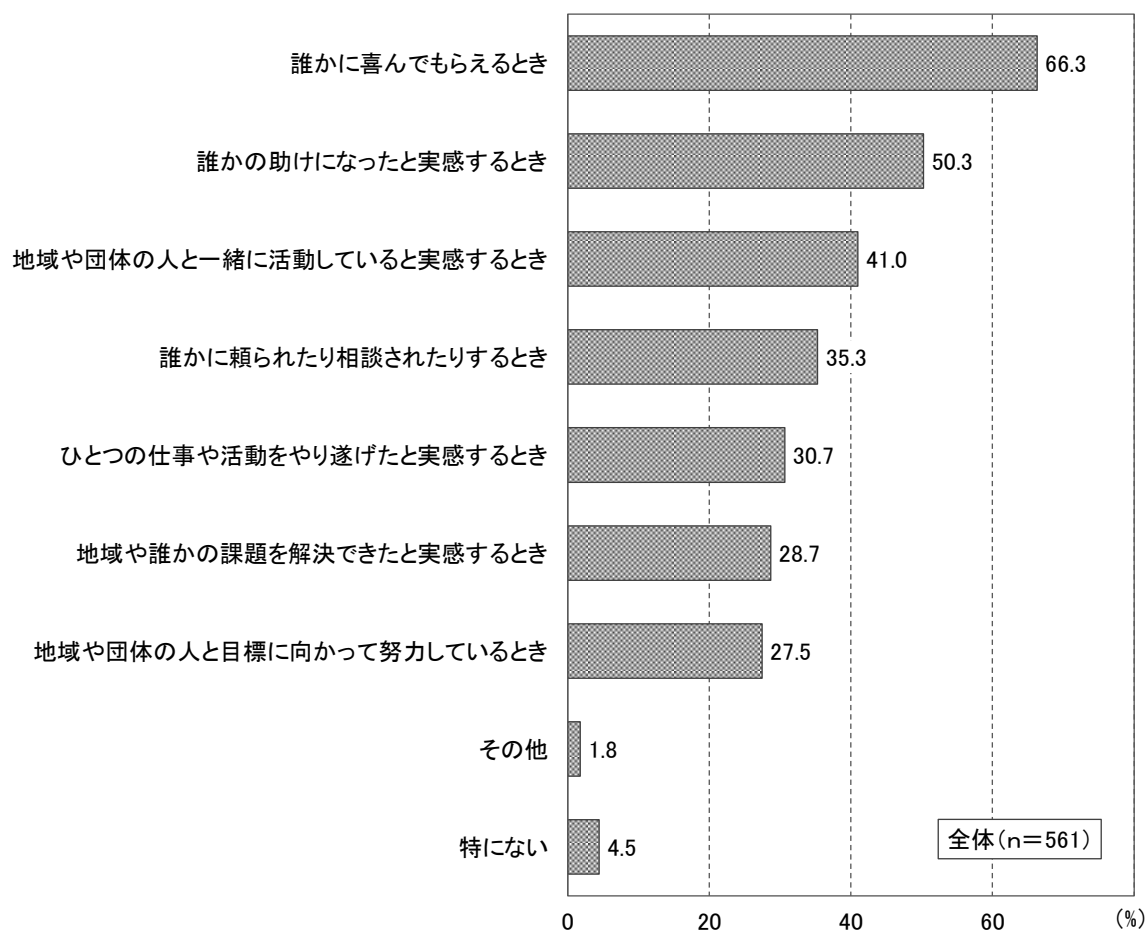
問 20-1 ボランティア活動に参加したいと思いますか。

「すでに参加している」が 66.3%と最も高く、次いで、「時間があれば参加したい」(22.1%)、
「是非、参加したい」(6.5%) の順となっています。



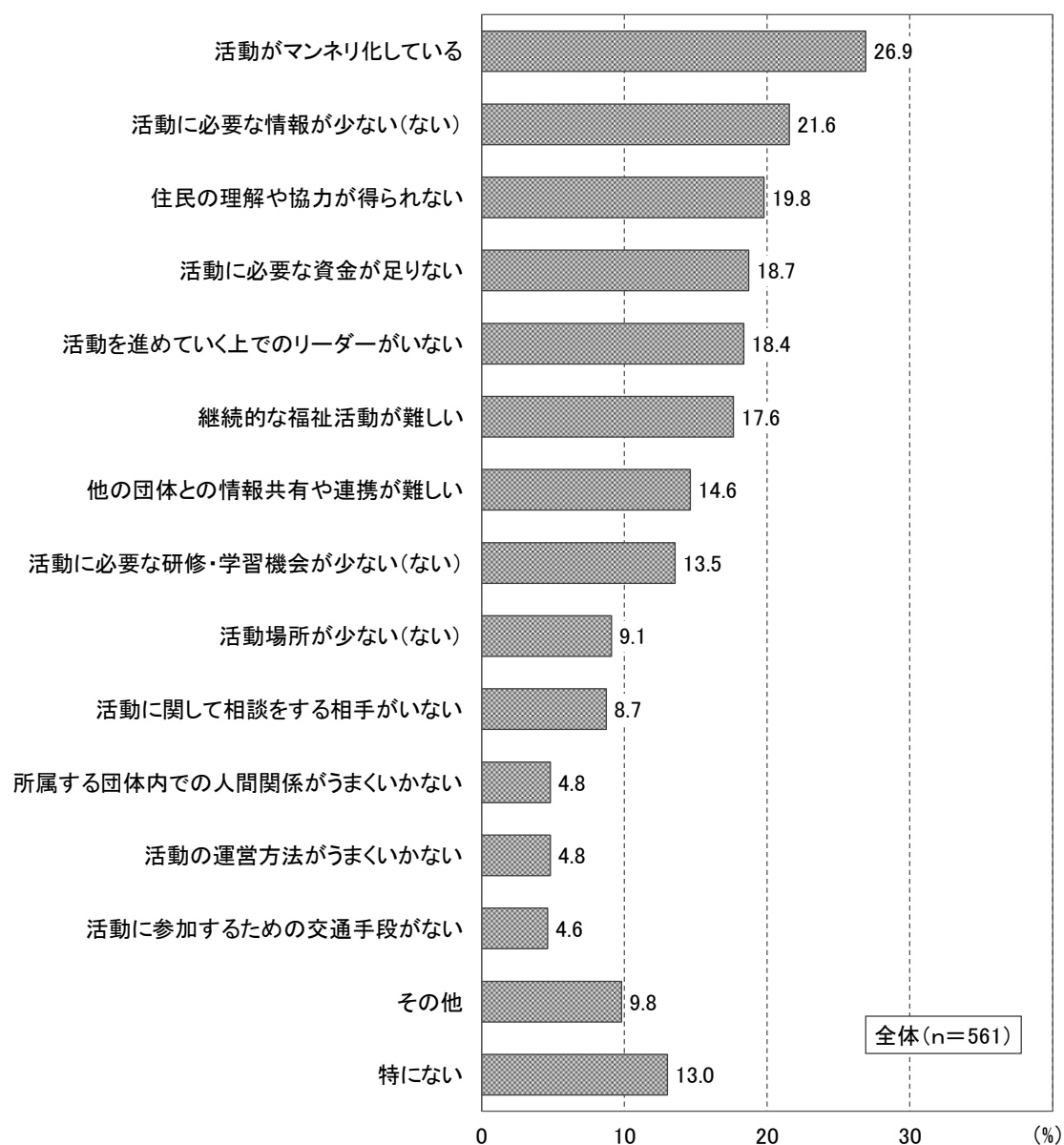
問 21 あなたが福祉に関する仕事や活動をするなかで、やりがいや楽しさを感じるのはどんなときですか。【MA】

「誰かに喜んでもらえるとき」が 66.3%と最も高く、次いで、「誰かの助けになったと実感するとき」(50.3%)、「地域や団体の人と一緒に活動していると実感するとき」(41.0%)の順となっています。



問 22 あなたが福祉に関する仕事や活動をするなかで、困ることや苦勞すること は何ですか。【MA】

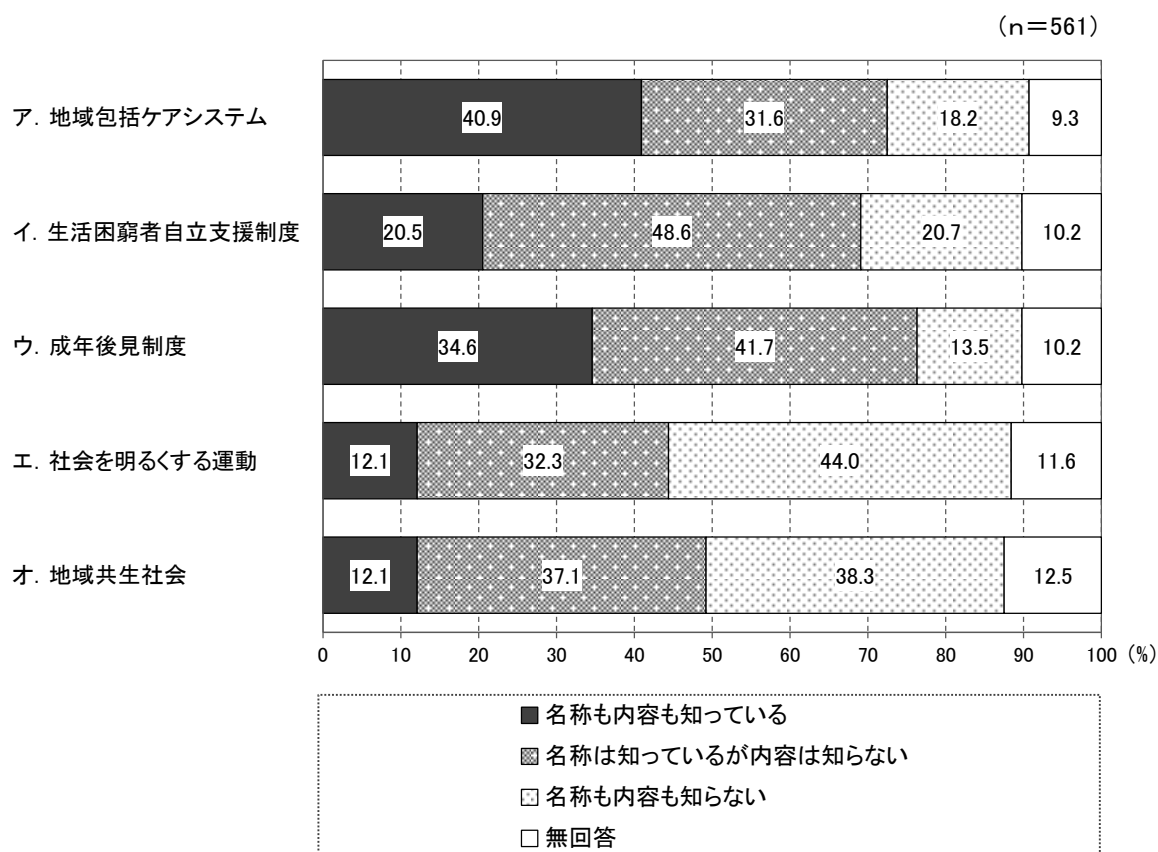
「活動がマンネリ化している」が26.9%と最も高く、次いで、「活動に必要な情報が少ない(ない)」(21.6%)、「住民の理解や協力が得られない」(19.8%)の順となっています。



7. 福祉に関するしくみや制度について

問 23 次の名称や内容についてご存じですか。

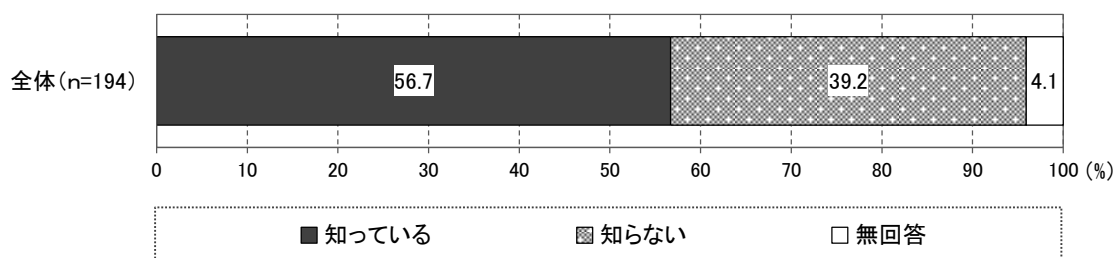
「名称も名前も知っている」では、「地域包括ケアシステム」が40.9%と最も高く、次いで、「成年後見制度」(34.6%)、「生活困窮者自立支援制度」(20.5%)の順となっています。



【問 23「ウ。」で「1 名称も内容も知っている」に○を付けた方のみ】

問 23-1 成年後見制度には主に法定後見制度と任意後見制度がありますが、このうち「任意後見制度」があることを知っていますか。

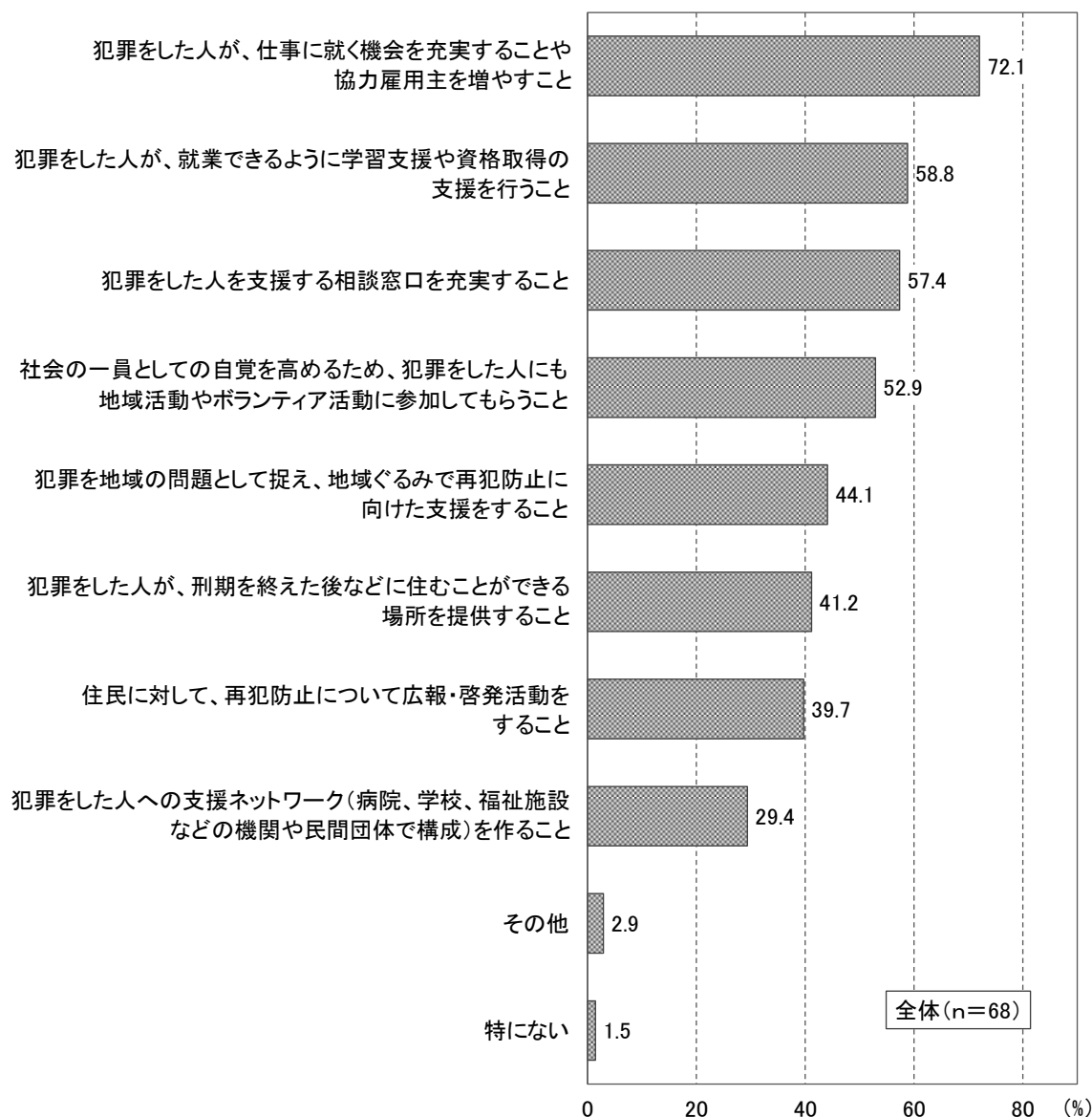
「知っている」が56.7%、「知らない」が39.2%となっています。



【問 23「エ。」で「1 名称も内容も知っている」に○を付けた方のみ】

問 23-2 再犯防止のために、何が必要だと思いますか。【MA】

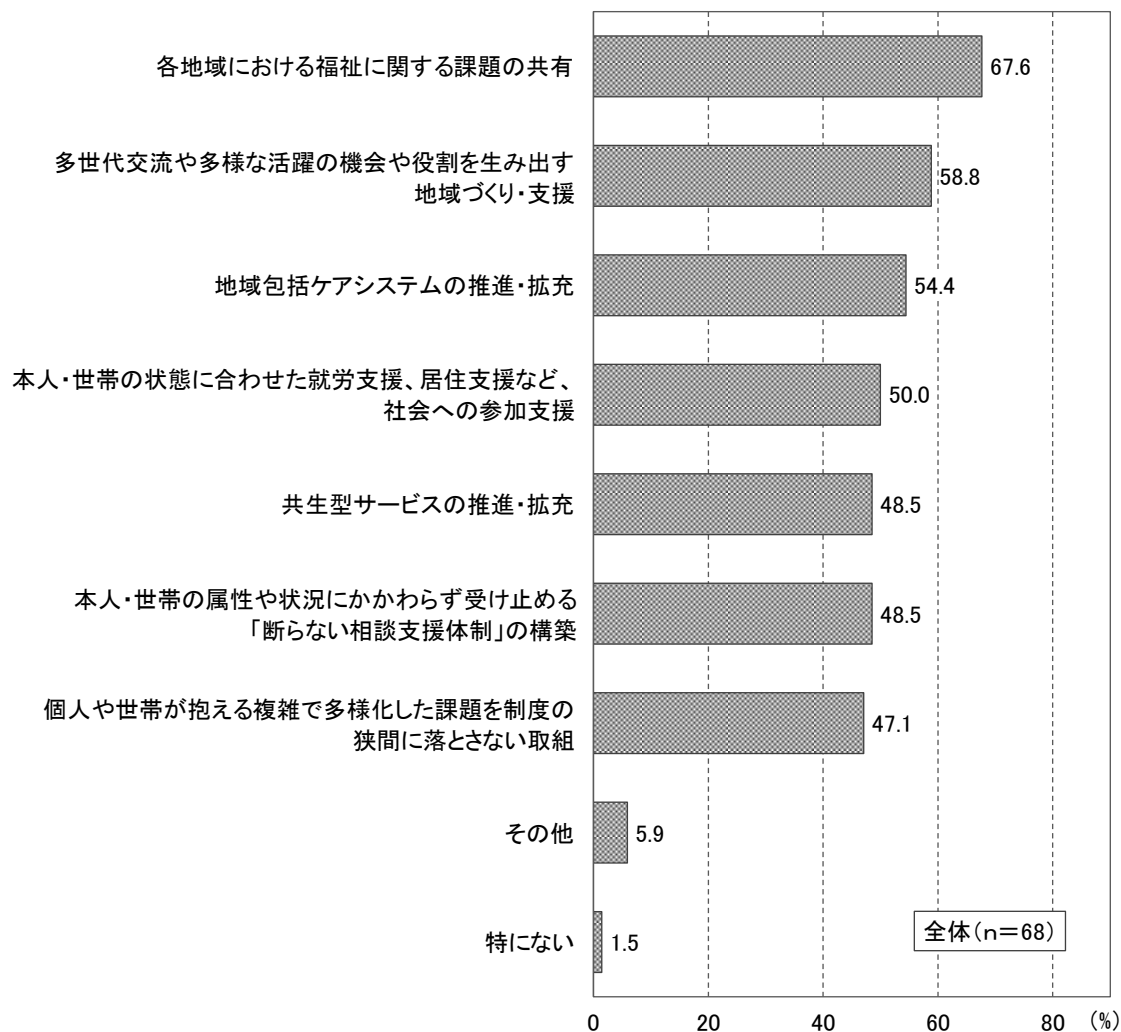
「犯罪をした人が、仕事に就く機会を充実することや協力雇用主を増やすこと」が72.1%と最も高く、次いで、「犯罪をした人が、就業できるように学習支援や資格取得の支援を行うこと」(58.8%)、「犯罪をした人を支援する相談窓口を充実すること」(57.4%)の順となっています。



【問 23「オ。」で「1 名称も内容も知っている」に○を付けた方のみ】

問 23-3 「地域共生社会」の実現に向けて、地域の様々な団体の連携をさらに深めたり活発にするために、必要な取組は何だと思いませんか。【MA】

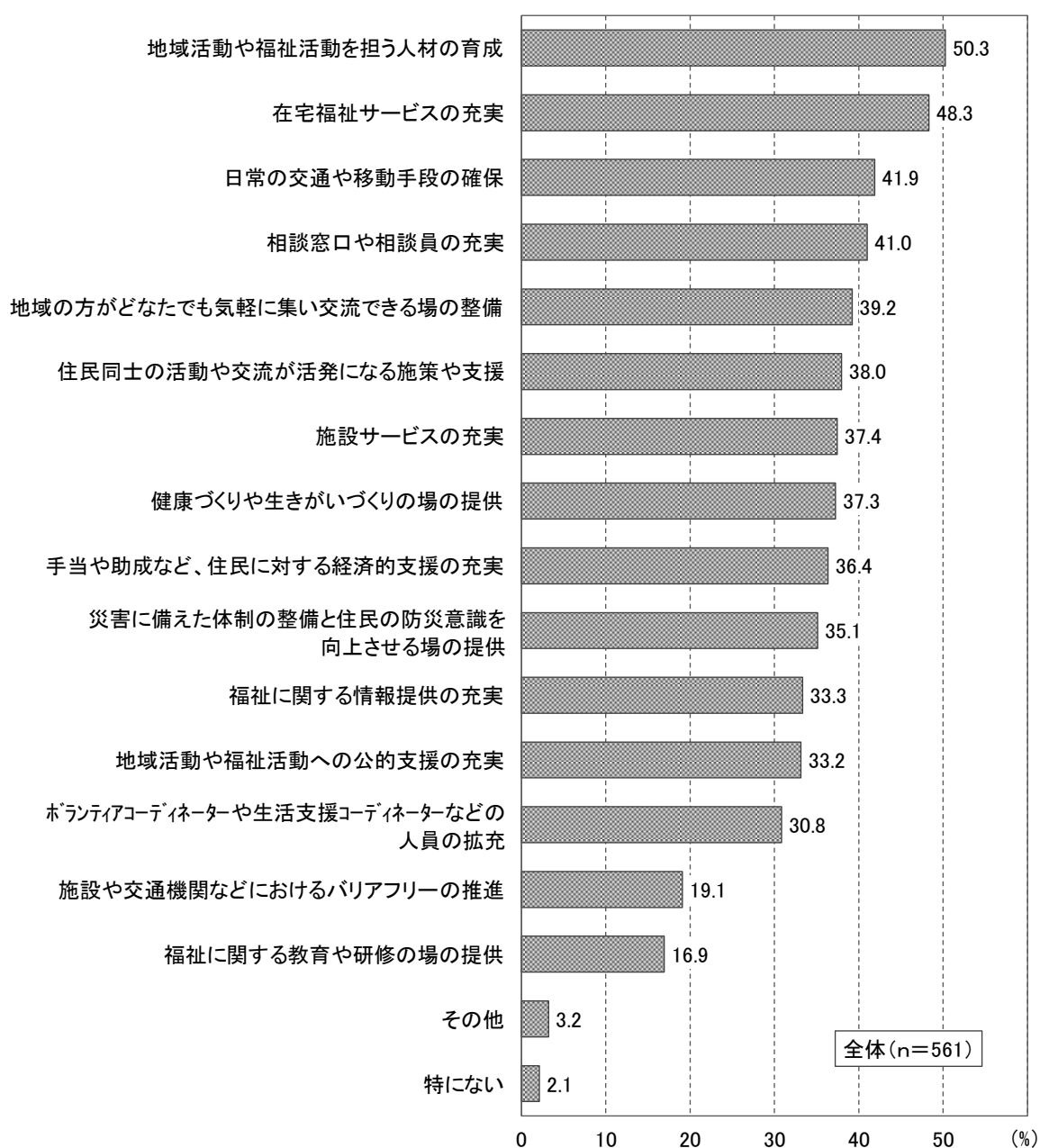
「各地域における福祉に関する課題の共有」が 67.6%と最も高く、次いで、「多世代交流や多様な活躍の機会や役割を生み出す地域づくり・支援」(58.8%)、「地域包括ケアシステムの推進・拡充」(54.4%)の順となっています。



8. 福祉に関する施策全般について

問 24 みんなで地域社会を支え合いながら、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるまちを実現するために、どのような施策や取組が必要だとお考えですか。【MA】

「地域活動や福祉活動を担う人材の育成」が50.3%と最も高く、次いで、「在宅福祉サービスの充実」(48.3%)、「日常の交通や移動手段の確保」(41.9%)の順となっています。



Ⅲ その他意見

以下、次のとおり表記しています。

◆ 地区について

志津小学校区：「①志津」

草津小学校区：「③草津」

渋川小学校区：「⑤渋川」

老上小学校区：「⑦老上」

玉川小学校区：「⑨玉川」

山田小学校区：「⑪山田」

笠縫東小学校区：「⑬笠縫東」

草津市以外：「⑮市外」

志津南小学校区：「②志津南」

草津第二小学校区：「④草津第二」

矢倉小学校区：「⑥矢倉」

老上西小学校区：「⑧老上西」

南笠東小学校区：「⑩南笠東」

笠縫小学校区：「⑫笠縫」

常盤小学校区：「⑭常盤」

問3 あなたが草津市内で行っている活動（所属）をお答えください。

老人クラブ。シルバー人材センター剪定。	①志津	65～74歳	男性
地域サロン。	①志津	65～74歳	女性
健康推進員。	①志津	65～74歳	女性
志津南学区老人クラブ連合会会長。	②志津南	65～74歳	男性
健康推進員。	②志津南	65～74歳	女性
青少年育成会議。	③草津	65～74歳	男性
老人クラブ。	③草津	75歳以上	男性
健康推進員。	④草津第二	30～49歳	女性
健康推進員。	④草津第二	50～64歳	女性
スポーツ推進委員。	④草津第二	50～64歳	女性
老人会。	⑤渋川	75歳以上	男性
草津スポーツ推進委員。	⑥矢倉	50～64歳	男性
教育現場。	⑥矢倉	65～74歳	女性
補導委員。	⑥矢倉	65～74歳	女性
老人会。	⑥矢倉	75歳以上	男性
自主防災組織。	⑥矢倉	75歳以上	男性

子育てサークル。	⑦老上	30～49 歳	女性
老人クラブ。	⑦老上	65～74 歳	女性
健康推進委員。	⑨玉川	50～64 歳	女性
サークル。	⑨玉川	75 歳以上	女性
健康推進。	⑩南笠東	65～74 歳	男性
サロン。	⑩南笠東	65～74 歳	男性
地域サロン。	⑩南笠東	65～74 歳	男性
ふれあいサロン。	⑩南笠東	65～74 歳	女性
健康推進員。	⑩南笠東	65～74 歳	女性
サロン活動。	⑩南笠東	75 歳以上	男性
地域サロン。	⑩南笠東	75 歳以上	男性
高齢者支援地域サロン。	⑩南笠東	75 歳以上	女性
地域サロン活動代表。	⑪山田	50～64 歳	女性
高齢者サロン。	⑪山田	65～74 歳	女性
学区老人クラブ会長。	⑫笠縫	65～74 歳	男性
老人クラブ顧問。	⑫笠縫	75 歳以上	男性
健康推進委員。	⑬笠縫東	65～74 歳	女性
百歳体操。	⑬笠縫東	75 歳以上	男性
総合型地域スポーツクラブ運営。	⑭常盤	50～64 歳	男性
学校運営協議会。	⑭常盤	50～64 歳	女性
老人クラブ。	⑭常盤	65～74 歳	男性
健康推進員。	⑭常盤	65～74 歳	女性
福祉関係。	⑭常盤	75 歳以上	男性

問 9 地域における助け合いや支え合いの活動を活発にするためには、どのようなことを充実すべきとお考えですか。

行政の積極性。	①志津	30～49 歳	男性
介護やボランティア活動の方法などの研修を障がい当事者と共に行うこと。	①志津	65～74 歳	－
健康と生活などのテーマでみんなが参加したり、データの管理する P H R などを活用（個別特定できない）。	③草津	50～64 歳	男性

引退世代が自主的に社会貢献できる場、雰囲気を行政が積極的に設けること。	③草津	50～64 歳	男性
補助金を出す。	④草津第二	30～49 歳	男性
助け合いや支え合いを義務とすること。義務（納税と参画）を果たさないと権利を主張できなくする。	⑤渋川	65～74 歳	男性
憲法改正。	⑥矢倉	30～49 歳	男性
コロナウイルス感染予防のためにとる集会所などの機材購入や改造の費用を市や社協が援助するシステム作り。	⑥矢倉	75 歳以上	男性
各世代が混ざりあって、地域活動に参加してくれること。	⑫笠縫	30～49 歳	男性
行事を減らすこと。	⑭常盤	50～64 歳	-

問 10 近所や地域のつきあいやかかわりにおいて、困っている方がいれば手助けしたいと思うのは、次のうちどれですか。

通学の見守り。	①志津	65～74 歳	男性
にわか雨のときなどの洗濯物取り込みなどの手助け。	①志津	65～74 歳	-
年齢的に手助けをすることは無理。逆に手助けをしてほしい。	①志津	75 歳以上	男性
高齢者宅（空家も含む）の垣根剪定、草刈りなどの支援。	②志津南	65～74 歳	男性
近所に家がなく、手伝いができない。	②志津南	65～74 歳	男性
地域の草引き。毎日 4 時半から 2～3 時間実施している。	②志津南	65～74 歳	男性
健康面での悩み相談、排泄や不眠なども含めて。	③草津	50～64 歳	男性
音楽活動。癒やされたい人は癒やしの音楽。励まされたい人は励ましの音楽。	③草津	65～74 歳	男性
できる範囲の小さな修理、修繕。	③草津	75 歳以上	男性
子どもの居場所作り。	④草津第二	30～49 歳	女性
入院、一時転居などによる空家の世話。	⑤渋川	75 歳以上	男性
なるべく自立支援でよい距離感を持って共存共栄を心掛ける。	⑥矢倉	50～64 歳	男性
高齢者の庭の手入れ、草刈りなど、市の方に安価で助けてほしい。	⑥矢倉	50～64 歳	女性
町の行事やサロン活動へのお誘い。	⑥矢倉	65～74 歳	女性
手伝えることもあると思うが、自分から声をかけるのはおせっかいに思われる。	⑥矢倉	65～74 歳	女性
高齢者や一人暮らしの方の庭木の伐採や手入れ、電球の取り替えなど軽作業。	⑥矢倉	75 歳以上	男性

視覚障がい者のため、手助けはできない。	⑥矢倉	75 歳以上	男性
民生委員の力を借り、町内会の独居指名などの把握を町内三役には必要。プライベート問題との兼ね合いもあり難しいのか。	⑦老上	65～74 歳	男性
そのとき自分にできることであれば、手助けしたいと思う。	⑧老上西	30～49 歳	女性
現在は仕事をしているが辞めたら、買い物や病院への送迎をしたいと考えている。	⑧老上西	65～74 歳	女性
草引き。	⑨玉川	65～74 歳	男性
高齢者のため無理。	⑨玉川	75 歳以上	女性
イベントの参加・協力。	⑩南笠東	65～74 歳	男性
食事（副食）の差し入れ、草引き。	⑪山田	75 歳以上	女性
今勤務している。	⑫笠縫	65～74 歳	女性
なかなかこちらから入り込めない。求められれば動ける。	⑫笠縫	75 歳以上	女性
町内会の役員の免除。	⑬笠縫東	50～64 歳	男性
個人によって人に頼むことを嫌う人がいて入り込めない。	⑬笠縫東	65～74 歳	男性
個人情報障害になって手助けが難しい。	⑬笠縫東	75 歳以上	男性
就学前の子育て中の親子の居場所作り。	⑭常盤	50～64 歳	女性

問 11 近所や地域のつきあいやかかわりにおいて、特に求められていると感じられることは、次のうちどれですか。

通学の見守り。	①志津	65～74 歳	男性
相談がしやすい。みんな家のことを隠される。	①志津	65～74 歳	男性
買い物時や雨の日に出会ったときのサポート。	①志津	65～74 歳	－
認知症やうつなど精神面での悩みなど言いづらいことを聞ける場作り。	③草津	50～64 歳	男性
毎回の受診時の同行。心身の状況を理解でき受診が億劫にならないための配慮があればよいと思う。	③草津	50～64 歳	女性
デイサービスでの音楽活動（現在活動中）。	③草津	65～74 歳	男性
関わり、付き合いを好まない若い世代が多い。	③草津	75 歳以上	男性
話をする場を増やす。強制ではなく、興味を引くイベントを開催など。	④草津第二	30～49 歳	男性
町内会の活性化の担い手の育成。	④草津第二	75 歳以上	男性
百歳体操の世話。	⑤渋川	75 歳以上	男性

独居者の一時的不在による家屋、庭の見守り、世話。	⑤洪川	75 歳以上	男性
サークルの行事などで参加した人と話をして信頼関係を作ること。	⑥矢倉	75 歳以上	男性
積極的に人との関わりを持つこと。	⑦老上	65～74 歳	男性
困ったときにどのように情報を得るか、手段の共有。	⑧老上西	30～49 歳	女性
草むしり。	⑨玉川	65～74 歳	男性
防犯情報の共有。	⑩南笠東	65～74 歳	男性
生活の中まで入り込めない。会えば声を掛ける。	⑫笠縫	75 歳以上	女性
町内会役員活動の簡素化、軽減。	⑬笠縫東	50～64 歳	男性
例えば地域でのラジオ体操などで顔を合わせて声を掛けやすい場作りが必要と思う。	⑬笠縫東	65～74 歳	女性
求められているのかを感じられない。	⑬笠縫東	75 歳以上	男性
就学前の子育て中の親子が楽しめる居場所。	⑭常盤	50～64 歳	女性

問 14 あなたは、地震や風水害、火災などの災害に対して、どのような備えを行っていますか。

側溝の清掃、樹木の枝切り。	②志津南	65～74 歳	男性
住居が古いので大災害時には全壊する。	③草津	65～74 歳	男性
具体的には何もしていない。	⑤洪川	65～74 歳	男性
自主防災委員。	⑥矢倉	75 歳以上	男性
考えない。	⑦老上	65～74 歳	男性

問 15 あなた自身が災害にあわれたとき、主にだれ（どこ）を頼りにしますか。

住宅メーカー。	①志津	50～64 歳	女性
保険会社。	②志津南	50～64 歳	男性
一人住まい。	⑥矢倉	50～64 歳	男性
自分自身。	⑥矢倉	50～64 歳	女性
自分自身。	⑦老上	65～74 歳	男性
災害による。	⑬笠縫東	65～74 歳	男性

問 16 あなた自身が災害にあわれたとき、どのようなことを不安・心配に思いますか。

避難所までの移動。	①志津	65～74 歳	-
被害の大きさにより状況が変わる。	②志津南	65～74 歳	男性
自分自身の健康面。	③草津	50～64 歳	男性
職場に関わること。	③草津	50～64 歳	女性
コロナ禍で3密を避けながら避難所に行くのはとても不安。事前のシミュレーションを希望する。	⑨玉川	50～64 歳	女性
今後の生活のこと。	⑭常盤	50～64 歳	女性
特に要配慮者の我が子を含め、自分の所属する会の要配慮者のこと。	⑭常盤	50～64 歳	女性

問 17 要介護者や生活困窮者などの方が、不安に思っている点や悩んでいる点はどこにあると思いますか。

内容が分からない。	②志津南	65～74 歳	男性
全部あてはまると思うが、個人により差がある。	③草津	50～64 歳	男性
分からない。	⑥矢倉	65～74 歳	女性
これからの自分の身体がどうなっていくかについて。	⑧老上西	30～49 歳	女性
全部該当するだろう。各々生活が違うので憶測で回答できない。	⑨玉川	50～64 歳	女性
分からない。	⑩南笠東	65～74 歳	男性
要介護者の介護者（家族）が悩んでいる。	⑬笠縫東	50～64 歳	男性
困ってる人の気持ちを気軽には答えられない。	⑬笠縫東	75 歳以上	男性

問 18 悩みや不安があるとき、要介護者や生活困窮者などの方は、だれ（どこ）に相談すると思いますか。

質問の意味が当事者のことを思うことを第三者で考えられない。	③草津	50～64 歳	男性
知らない。	⑤渋川	65～74 歳	男性
子どもがいるときは、学校。	⑥矢倉	30～49 歳	男性
相談する人はごく一部、ほとんど相談しない。	⑭常盤	50～64 歳	女性

問 19 あなたは、お住まいの地域について、どのようなことを不安・心配に思っていますか。

マンション化が進み、地域の良さがなくなっていくこと。	③草津	30～49 歳	男性
閉じこもりやDVなど、もっとナイーブな問題があると思う。	③草津	50～64 歳	男性
心を病んでいる家族が近所にいる。周りの人々と協調できず、困惑。隣組の人と音（人の声や日常生活音）の件で争いが絶えなく、役所まで呼び出しをする。	③草津	65～74 歳	男性
一人住まいの高齢者の孤独死をなくす。	⑥矢倉	50～64 歳	男性
急な開発による不安はたくさんある。事故が起きないか毎日不安。	⑦老上	65～74 歳	女性
今は自分で車の運転ができるが、将来、交通・移動手段が心配。	⑧老上西	65～74 歳	女性
町内に買い物できる施設がないのはおろか、自動販売機もない。	⑨玉川	50～64 歳	女性
町内会加入者の減少。市情報などが届かない。今の町内会頼りの行政システムでは問題。	⑩南笠東	65～74 歳	男性
自治会からの退会。	⑬笠縫東	50～64 歳	男性
障がい者福祉施設が少ない。スタッフ不足。	⑭常盤	50～64 歳	女性

問 20 あなたは福祉のどの分野に関心がありますか。

在宅介護をしている方への支援。	⑧老上西	65～74 歳	男性
特になし。	－	30～49 歳	女性

問 21 あなたが福祉に関する仕事や活動をするなかで、やりがいや楽しさを感じるのはどんなときですか。

見守りした子が大きくなったとき、あいさつしてくれたときなど。	①志津	65～74 歳	男性
やる人がいないから。	⑤渋川	75 歳以上	男性
メンバーの顔を見て笑顔で話しているとき。	⑥矢倉	65～74 歳	女性
親族でないと、関わっていくのが困難な気がする。	⑥矢倉	65～74 歳	女性
元気をもらえる、学ぶことが多い。	⑥矢倉	75 歳以上	女性
やりがいも楽しさもない。やらなければならないことにはで	⑬笠縫東	65～74 歳	男性

きるだけ協力（行動）したい。			
福祉の意味不明。	⑬笠縫東	65～74 歳	男性

問 22 あなたが福祉に関する仕事や活動をするなかで、困ることや苦勞すること何ですか。

継続していく上でのスタッフが集まりにくい。	①志津	50～64 歳	女性
役所の理解が少ない。仲間のなり手が少ない。	①志津	65～74 歳	男性
行政や教育関係者、国の方針が変わらない。	①志津	65～74 歳	－
福祉サービス全般にお金と人の予算が少なすぎる。国も自治体ももっと予算をつけて、ゆとりのある状況を作ることが必要。目の前のことでいっぱいでは、活動を充実することなどできない。人材の質も低い。	②志津南	30～49 歳	男性
時間的余裕がない。	②志津南	30～49 歳	男性
後継者が育たない。	②志津南	50～64 歳	男性
福祉活動をする時間の余裕がない。	②志津南	50～64 歳	男性
活動リーダーの後継者がいない。	②志津南	65～74 歳	男性
自分の行動がおしつけになるのが怖い。	②志津南	65～74 歳	男性
活動に参加してくれる人達の高齢化（自分を含め）。	②志津南	65～74 歳	女性
活動をしていないので、分からない。	③草津	50～64 歳	男性
現役世代では仕事との両立が厳しい。市の行政事務委嘱の仕事も非常に負担である。ボランティア委嘱金は町内会の収入。	③草津	50～64 歳	男性
行政内の横のつながりがなく、協力が得にくい。連携に時間がかかる。	③草津	50～64 歳	女性
社会福祉協議会が機能していない。	③草津	65～74 歳	男性
会員が増えない。	③草津	65～74 歳	男性
後継者不足。	③草津	65～74 歳	女性
70 歳以上の高齢者に老人クラブ入会を勧めても入ってくれない。	③草津	75 歳以上	男性
協力者（ボランティア）、後継者がいない。	④草津第二	30～49 歳	女性
地域ボランティアの若い次世代の担い手がいない。	④草津第二	50～64 歳	女性
母子家庭なのでフルで働き、気持ちはあるが時間と体力がない。	④草津第二	50～64 歳	女性
自分自身の仕事との両立が難しい。ときには休暇（有休）を	④草津第二	50～64 歳	女性

とることもあり得る。			
事務局も兼任となるため負担が大きい。	④草津第二	65～74 歳	男性
参加者が少ない。	④草津第二	65～74 歳	女性
活動に必要な人材がいない。	④草津第二	－	女性
本来の目的を見失っているものが多い。	⑤洪川	65～74 歳	男性
参加者が少ない。	⑤洪川	75 歳以上	男性
自分一人の生活が精一杯。	⑥矢倉	50～64 歳	男性
後継者がいない。あるいは見つからない。	⑥矢倉	65～74 歳	女性
組織のスタッフを長く担っていかねばならない。同世代の方々の参加・協力を得るには。個々の活動への関心度を高めてもらいたい。	⑥矢倉	65～74 歳	女性
今までそういった活動に携わったことがないので、分からない。	⑥矢倉	65～74 歳	女性
コロナウイルス関連で室内での活動がしにくい。	⑥矢倉	75 歳以上	男性
会員を増やすため声を掛けているが、なかなか集まらない。	⑥矢倉	75 歳以上	男性
町内会組織がない。	⑦老上	65～74 歳	男性
医療関係との連携。	⑧老上西	30～49 歳	女性
福祉に関する仕事や活動をまだしたことがないので、分からない。	⑧老上西	50～64 歳	女性
家族の理解が得られない。	⑧老上西	50～64 歳	女性
地域では既に固定したリーダー的な存在の人がいて、新しい空気やり方はなかなか受け入れなかった経験があり、積極的になりにくい。	⑧老上西	65～74 歳	女性
活動しているが、人数の減少で人を集めるのに苦労している。	⑨玉川	65～74 歳	女性
福祉の活動はほぼボランティアだが、ボランティアで活動しようという人がいない。	⑨玉川	75 歳以上	男性
若い後任者を発掘すること。	⑨玉川	75 歳以上	男性
住民の遠慮があり、申し込みが少ない。	⑩南笠東	65～74 歳	男性
仲間集め。	⑩南笠東	75 歳以上	男性
他人事のように思ってしまう。	⑪山田	65～74 歳	男性
自分の生活で精一杯で他人の福祉活動をする余裕がない。	⑪山田	65～74 歳	男性
まだ活動していない。	⑪山田	65～74 歳	男性
委員などやるべき仕事が多すぎるが、担い手がいない。同じ人で回している。負担が多くなり、更に担い手がいなくなる。	⑫笠縫	30～49 歳	女性

本来呼びたい方がみえない。どこへでも顔出しされる元気な方が多いのが少し考えるところ。	⑫笠縫	65～74 歳	男性
高齢化で参加者が減少していく。	⑫笠縫	75 歳以上	男性
サロンなどの参加者が少ない。	⑫笠縫	75 歳以上	女性
人権を尊重しての情報提供に問題。	⑬笠縫東	65～74 歳	男性
高齢化社会で若い方に入ってもらえない。	⑬笠縫東	75 歳以上	女性
後を引き継いでくれる人がなかなかいない。	⑭常盤	50～64 歳	女性
福祉活動の大切さを分かろうとしない人が増えている。	⑭常盤	50～64 歳	女性
参加者を増やしたいが増えない。	⑭常盤	65～74 歳	女性
スタッフの高齢化、若い人（50～60 代）が入ってくれない。	⑭常盤	65～74 歳	女性

【問 23「エ。」で「1 名称も内容も知っている」に○を付けた方のみ】

問 23-2 再犯防止のために、何が必要だと思いますか。

機会や経験がないため、分からない。	⑬笠縫東	75 歳以上	男性
-------------------	------	--------	----

【問 23「オ。」で「1 名称も内容も知っている」に○を付けた方のみ】

問 23-3 「地域共生社会」の実現に向けて、地域の様々な団体の連携をさらに深めたり活発にするために、必要な取組は何だと思いますか。

障がい児を別にしない教育。	①志津	65～74 歳	-
地域共生社会に対する認知度の低さ、地域に関心が持てない時間の少なさ。	③草津	50～64 歳	男性
縦割りの考えではなく、横のつながりを大切にする考え方。	⑧老上西	30～49 歳	女性
全て必要と考えているが、実際は取り組みの実施と継続はかなり難しい。	⑧老上西	65～74 歳	女性

問 24 みんなで地域社会を支え合いながら、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるまちを実現するために、どのような施策や取組が必要だとお考えですか。

行政のスピード感。	①志津	30～49 歳	男性
様々な差別についての学習会やワークショップ。	①志津	65～74 歳	-
自助の活動の内容や、進め方の方法。	②志津南	65～74 歳	男性

近隣などでコミュニケーション力を上げ、それにより情報量が増し、誰が何を求めているかを把握することができる。	③草津	50～64 歳	男性
町内会への委嘱など、依頼するのは本末転倒。あくまでボランティア、社会貢献の精神から自主的に活動するものでなければならない。行政、公務員は真剣に考えてほしい。	③草津	50～64 歳	男性
草津市は駅周辺の地域と昔からの地域で人々の考えなどに大きな開きがあり、画一的な施策では難しいと思うが、地域に沿ったやり方でまちづくりを考えてほしい。	③草津	50～64 歳	女性
介護士、ヘルパーの人員確保。	③草津	65～74 歳	男性
分からない。	⑤渋川	65～74 歳	男性
福祉に関わりなく、何も分からない。	⑤渋川	75 歳以上	男性
近所付き合いの充実。	⑧老上西	50～64 歳	女性
きめ細かな場の充実。例えば空家の借り上げなど。	⑩南笠東	75 歳以上	女性
必要な資金のすばやい提供。	⑪山田	65～74 歳	男性
昔のように二世代三世代の同居がなぜできないのか。子どもはみんな県外で生活する。社会がおかしい。	⑪山田	65～74 歳	男性
老人が安心して歩ける道路の整備、歩道の設置。浜街道は歩道が少ない（途切れている）。	⑭常盤	65～74 歳	女性

Ⅳ 自由記述

若い子育て世代（核家族）が増えている。結婚して草津に来て、実家が遠く頼れる人がいない人が多くいる。子どもの一時預かりや、相談する場をもっと増やしてほしい。近所の人には、信頼関係がないと子どものことなどは言えない。	①志津	30～49 歳	女性
リーダー及びボランティアがいる。継続的な正確な情報発信、提供。居心地のよい居場所（サロンなど）が複数あること。	①志津	50～64 歳	女性
災害時、障がい程度によって各避難場所を設けてほしい。知的障がいがあると、全員同じ場所での生活は無理だと思う。	①志津	50～64 歳	女性
新旧世代が入り交じる中でどのようにしたらコミュニケーションが取れるのか、町の活動が魅力的と思ってもらえるのか、先進地へ行って話を聞きたい。そういった情報をもっとほしい。	①志津	50～64 歳	女性
少ない活動家が多く活動をするよりも、より多くの人が少ないだけの活動で支え合うことが大事。みんなが支え合い、他人に任せない社会作り。	①志津	65～74 歳	男性
社会福祉の充実。	①志津	65～74 歳	男性
気軽に頼れる環境作り。でもみんな家のことを隠す。	①志津	65～74 歳	男性
近隣の住民同士の関わりが薄い。若い世帯と高齢世帯間の持続的な恒久的な交流を続けられるような環境の醸成が必要。	①志津	65～74 歳	男性
「みんなが安心して暮らせるまちづくり」とはどんな町かを考えると地域みんながよく外出しそこで談笑している。子ども達の元気な声が聞こえる。自由に意見が言える民主的な自治会がある。公共物、道路などがきれいである。医療機関、店がある。危険な場所に防犯カメラを設置している。などが揃うと住みよい町だと思う。	①志津	65～74 歳	女性
もし一人暮らしになったとしても誰かが見守ってくれて、必ず誰かとはつながっているという安心感があるまちづくり。	①志津	65～74 歳	女性
近所付き合い、地域活動の参加を充実したい。	①志津	65～74 歳	女性
日常の買い物や病院への交通手段が難しいように感じる。	①志津	65～74 歳	女性
最近全ての困り事をたどっていくと、全てが障がい者の困り事や差別につながっていることに気付いた。地域福祉計画は、障がい者差別のない教育から始めなければ、このようなアンケートは永遠に終わらないと思う。	①志津	65～74 歳	-
世話になるのはうれしい。世話になった社会に少しはお返ししたいとの気持ちを多くの人に持って欲しい（特に高齢者に）。	①志津	75 歳以上	男性

後期高齢者のため、こちらから手を差しのべる機会はない。逆に依頼することが多くなると思う。そのためには人と人とのつながりが大切で、いざというときに助けてもらえる環境作りが大事だと思う。	①志津	75 歳以上	男性
I T (I C T) のレベルの向上をはかる。	①志津	75 歳以上	男性
強力なリーダーシップを取ること。各組織はうわべだけだと思う。真心のあるボランティア育成。	①志津	75 歳以上	男性
誰もが気楽に立ち寄って話したり、趣味のことをしたり、お茶したりできるような場所が、地域の中にあればよいと思う。できれば町内ごとに。	①志津	75 歳以上	女性
地域で週一回、会館を利用してのサロン。歩いて参加できるので高齢者、一人暮らしの方には喜ばれている。このような少人数（20～30 人）での集まりで充実した活動が必要だと思う。	①志津	75 歳以上	女性
在宅福祉サービスなど、制度の拡充がはかられているが、社会全体の理解が追いついていないように思う。困っている人、支援を必要とする人の見える化により、理解（認知）されるのではないか。その意味で、移動の自由、社会参加の機会を増やしたい。	②志津南	50～64 歳	女性
地域で支え合う意識を醸成する必要がある。	②志津南	65～74 歳	男性
福祉施策を行う行政と福祉を必要とする住民の間をつなぐ組織や人が不可欠である。これをボランティアに頼っていてよいものだろうかと疑問がある。これらの人材確保は難しい局面を迎えており、行政はこの点にもう少し力を入れるべきと思う。	②志津南	65～74 歳	男性
この地域において、大きな災害が発生していなく、助け合いの方法が理解しがたい。	②志津南	65～74 歳	男性
高齢者のため、みなさんの援助をお願いする方なので、よろしくお願いします。	②志津南	75 歳以上	男性
地域が高齢者地区と子育て地区が共存しているところでは家庭の事業も異なるため、福祉に関する目標や重点的目的が違い過ぎるので、若者と高齢者との交流の場所作りが必要だと思う。町内会ごとのイベント（焼き肉会、小旅行）の計画、実行、話し合い。	②志津南	75 歳以上	男性
地域の課題とその共有が必要。	②志津南	75 歳以上	男性
住民がまちづくりへの課題を共有して取り組むことが重要。問題点の整理と共有ができれば、自然に解決に向かえると思う。	②志津南	75 歳以上	男性
このアンケートでどのように分析をしようとしているのか。単純集計では結果が出て解決できる課題は見つけにくいと思う。質問内容も検討した方がいいと思う。有識者への意	③草津	50～64 歳	男性

見も取り入れて作成したのか。まずビッグデータから地域の特性をヴィジョンに向けた、何をすべきかが見えていないと思う。			
アンケートの趣旨は理解できるが、現在の新型コロナウイルスに対して3密にならないようにと言われている中で、地域福祉活動（イベント含む）や災害時など、どの様に対応して行くべきかよく分からないため、説明が聞ける場があれば参加したいと思う。	③草津	50～64 歳	男性
介護予防や総合事業対象者の人達が集えるインフォーマルサービスの「通える場」が少なく、移動手段がない方が多いと思う。送迎があり誘い合える環境が整えば充実するのではないか。また、ゴミ出しができない方のお宅の前までゴミを回収して下さるシステムサービスがあればよいと思う。	③草津	50～64 歳	女性
特に市役所関係者が、現場、組織、一人一人のことを知ろうとする努力が必要。このような当たり前のことを並べたアンケートが何の役に立つのか。世の中は日々変化しており個人情報やプライバシー保護など、ボランティア活動が難しくなっている。もっと市内や組織活動を維持するために、市が抜本的な指針を示さない限り、少しずつ崩壊していくと思う。	③草津	65～74 歳	男性
社会福祉協議会が名ばかりで、全く機能していない（市、学区とも）。まちづくり協議会の中の組織として良好な関係ができていなく、町内会を利用して寄付金を集めるだけの団体であり、過去の実績ばかりを自慢するだけで、時代に合った対応ができていない。このアンケートでいかにも福祉の担い手が社協である記載がされているが、社協は過去の遺物である。市は社協の現実を全く理解していない。	③草津	65～74 歳	男性
2025 年問題についての具体的な市の取り組みを策定する。自治会加入の重要性を説く。	③草津	65～74 歳	男性
アンケートの内容が何を聞きたいのかよく分からない。災害のことか、福祉のことか、地域のことか。	③草津	65～74 歳	男性
まちづくり（協）、社会福祉（協）、民生委員、町内会といったように、的を絞ったアンケートの方法もあるのではないか。地域福祉では大きすぎて漠然としてよく分からない。テーマが大き過ぎる。	③草津	65～74 歳	男性
日頃から近所や地域で助け合える信頼関係を作ること。	③草津	65～74 歳	女性
地域で生活するための施策の充実。高齢者も障がい者も地域で生活できるように。	③草津	65～74 歳	女性
活動の中で感じていることは、サービスや制度、施策では解決できない個々の悩み、課題を持っている方が多いこと。自身や家族のこと、他人に相談しにくい内容、相談しても解決できない問題で日々つらい思いをされているのではと感じ	③草津	65～74 歳	女性

ることがある。地域福祉＝互助を必要としていない人、拒否する人が多いのも現実。しかし必要としている人のために、拒否している人がいつか振り向くためのために、地道に活動したい。第3期福祉計画も「拒否している人」を意識して、少し目線を変えて策定するのもよいのではと思う。			
まちづくり協議会が日常の福祉活動について身近な問題や町内会の意見について展開してほしい。身近に思える協議会になってほしい。	③草津	75歳以上	男性
新興住宅地では、なかなか人間関係が作れない。同じ目的を持った近くの人が、少人数で会える機会がたくさんあればよいと思う。それには囲碁、将棋、麻雀、カラオケなどの機材が必要。以前、「老人いこいの家」に市から提供があったが、またそのようなことがあれば、よいきっかけになると思う。	③草津	75歳以上	女性
地域でリーダーを選び、その人を頼って何でも話せる自分になりたいと思う。	③草津	75歳以上	女性
高齢者を災害時にいかに避難、保護できるかが一番重要であり、そのためにも日頃から状況を把握することが大切だと思う。高齢者が参加しやすいイベントを開催するなど、地域活性の活動が必要。	④草津第二	30～49歳	男性
災害時だけでなく、日常的によく動く市役所の職員や関係者の方がいれば、いざというときもスムーズに処理できるのではと思う。常日頃から顔を見せてほしい。	④草津第二	30～49歳	女性
福祉の向上として、ボランティアではなく行政でできることを増やしてほしい。ボランティアは自分に余裕がないので参加しないという人が多いと思う。	④草津第二	30～49歳	女性
何よりも市役所や警察の支援や協業が最重要だが、市はやる気が感じられないし、滋賀県警は全国でも最も警察官が少ないにも関わらず、これを解消し人員を増やそうともしていないことを勘案すると安心して暮らせるまちづくりを真剣に取り組んでいるとは全く思えない。まず市や県の取り組みを住民にアピールし、実行すべき。	④草津第二	50～64歳	男性
困っている人が信頼して相談できる支援の場が不足していると思う。	④草津第二	50～64歳	男性
虐待、孤独死などのニュースを目や耳にする度に、人や社会とのつながりが大事だと感じる。コロナの時期は特に閉じこもりがちで、子育て中の母親や高齢者は家の中でどうされていたのかと思う。声を掛け合えるつながりを作るのは難しいが、大切なことだと思う。	④草津第二	50～64歳	女性
町内会の役員など、毎年参加協力している方が決まっていて、高齢化してきているので若い世代にもう少し関心を持ってもらいたい。	④草津第二	50～64歳	女性
町内活動の活発化、その前に市の支援が必要。町内の実態を	④草津第二	65～74歳	男性

最も知ってほしい。町内会長の在り方を今一度見つめ直してほしい。			
根底にはお互いの少しの気配り、思いやりが必要。高齢者にとってアンケートのページ不揃いは見づらく、思考がスムーズに進まないことが難点だったので、施策を進める上でよろしくをお願いします。	④草津第二	65～74 歳	男性
自助、共助、公助を防災だけではなく、強く地域福祉にも取り入れること。そのためには任意団体ではあるが町内会の強化とまちづくり協議会の充実が必要。公助をスムーズにするためにも。	④草津第二	65～74 歳	男性
まず家族、親族の方が理解すること。次に隣近所の方がやさしく見守ること。	④草津第二	65～74 歳	男性
地域の諸団体（町協を中心に町内会、町内会に入っていないマンションも含め）が誰もが参加できる楽しいイベントを地域の企業の協賛を得てできればよい。ただ、3密などコロナ対策で制限はされるが。	④草津第二	65～74 歳	男性
地域のつながり、親睦、交流、支え合いよりも、個人の時間を優先する時代。これは一億総活躍社会の号令のもと、共働きが当たり前になり、生活に余裕がなくなったからか。元気な高齢者で生活に余裕があり、地域活動（ボランティア）に時間を使ってもよいという少数だけでは続かない。	④草津第二	65～74 歳	男性
地域においてリーダーが必要。民生委員の的確な人員選出。近所との声掛けなどが必要。	④草津第二	65～74 歳	女性
地域の行事にも参加する人が年々少なくなり、近所付き合いが減っている。一人一人がもっと近隣や地域の「人」や「こと」にもっと意識を持って接して、遠慮なく協力し合えるようになればよいと思う。	④草津第二	65～74 歳	女性
町内会の担い手を見つけられない。個人情報のしぼりが強い世の中になってしまい、担い手の発掘ができない。行政も手が出せない。	④草津第二	75 歳以上	男性
自己満足的なことはいらない。実のある、安心できる、と思える施策が心配。まずは行動する必要性を感じてほしい。机上より行動。	④草津第二	75 歳以上	男性
社会福祉協議会の実態がよく分からない。草津市と直な関係でよいのではないかな。	④草津第二	-	女性
こういった活動に関わる方への報酬も必要だと思う。	⑤渋川	30～49 歳	男性
町内単位、近場での交流の場の充実、近所同士で助け合える関係をもっと深めていくことが大切だと思う。高齢化がどんどん進む中、少しでも若い力が必要であるが、ボランティアではなく、少しでも手当てが出ると前向きに考えてもらえると思う。	⑤渋川	30～49 歳	女性

いろいろな団体が個別に活動していて、サービスを受ける側は「また同じようなことを言ってくる」と思いがち。もっと横断的にうまく協調、協力して活動した方がよい。縦割り組織ばかりで、もっと横で連携した方がよい。	⑤ 渋川	65～74 歳	男性
草津市内の全部のまちづくりセンターを災害時に対応できるように、段ボールベッドなど設備の充実をはかってほしい。	⑤ 渋川	65～74 歳	男性
働き方改革と言われているように地域福祉や地域活動も旧態依然のやり方から改革していく必要がある。	⑤ 渋川	65～74 歳	男性
住民同士が活動できる交流の場が必要だと思う。誰でも気軽に参加できるイベントなどを考えてほしい。	⑤ 渋川	65～74 歳	男性
地域での助け合い、支え合い（互助）について、町内会レベル、学区レベル（まち協）で取り組むテーマを絞り、気軽に助け合い、支え合う環境作り、暮らしやすさを実感してもらう。よろず相談、手伝い（1 時間 500 円程度で有料）を町内で行う。継続的に活動するための支え手が不足している。核家族化、共働きなどにより「助け合う」精神的な余裕がないのかもしれないが、共通の課題を持っていれば支え合うことができると思う。支え手の育成は組織として取り組み、計画的に何をするか、説明して理解してもらう必要がある。任期制で町内から募集するか、ボランティア活動に任せるのか。任期期間なしのボランティア活動だけでは集まらない。年間活動結果の課題出し、対応策を検討し、リーダーが必要。身近な町内活動でないと高齢者を対象の場合は、利用（参加）しがたい。まち協の活動に参加する人は少ない。助け合い、支え合いの内容、程度をどのレベルにするか。深く関わると支え手の負担、受け手は知られたくないことに触れられる。有機的、総合的なネットワークの力で福祉活動を解決する。実務の福祉活動の重複、関連を整理して各種福祉活動の団体を整理するべき。福祉活動の全体像が見えない。市のＨＰに掲載すると、相談を受けたとき、どこに問い合わせたらよいか分かる。一部の団体が全戸配布、回覧で情報誌を発行しているが、団体名と活動内容に違和感があるものがある。福祉に関する活動は情報が少ない。	⑤ 渋川	65～74 歳	男性
身近の地域の方か市役所の人で、何でも気軽に話ができるかにかかってくると思う。	⑤ 渋川	65～74 歳	女性
町内単位で健康についての勉強会や講習会などを開くようにしてもらう。民生委員も知らない顔の人が多い。会館に健康器具を設置し、一日オープン。	⑤ 渋川	75 歳以上	男性
10 年程前、市内各学区にまちづくり協議会が作られた。地域内の各自治体が個々に活動していたが、「地域のことは地域で」のスローガンの下で、協力し合ってまちづくりを進め	⑤ 渋川	75 歳以上	男性

て行くことであった。10 年経った今、まちづくりを検証してみると、①役員が多忙となって役員の引き受け手が減った②市当局が旗振りをしたいけど、その後のフォローがされずもっと前面に出ていくべきとの声が多い。			
新型コロナによる高齢者社会参加活動の全国的な休止により、高齢者の認知症、うつリスクが大きくなっている。感染者発生が少ない地域では高齢者の過剰自粛に陥らず、生きがい、健康寿命も重視した総合的な高齢者向け対策が必要である。感染予防をしっかりと行った上で、社会参加活動をなるべく続ける。	⑤渋川	75 歳以上	男性
福祉に関する教育のプロを養成する必要がある。少子高齢化社会の具体的な解決方法を確立する必要がある。政策が見えてこない。	⑤渋川	75 歳以上	男性
マンションやアパート、集合住宅の方達との交流が少ない。高齢者にとって、スマートフォンなど使っていない人が多く、情報が伝わりにくい。	⑤渋川	75 歳以上	女性
近所関係の疎遠の改善、近所のつながりが必要。	⑥矢倉	30～49 歳	男性
世代間交流として数々のイベント実施が必要かもしれないが、災害時や緊急事態に備えた勉強会やシミュレーションなどの方が大事だと思う。コロナ感染防止により今年は行事がたくさん中止になったが、いい機会ととらえ、今後のために必要か必要でないかを見定めるべきはないか（市、学区によるイベントなど）。	⑥矢倉	30～49 歳	女性
役員になった年は協力的に参加されるが、期間が終わると全く無関係と思う人が多いので、みんなが少しずつ協力すればとてもよい地域活動が行われると思う。	⑥矢倉	50～64 歳	男性
自分の生活が一番で、精一杯であるが、少し心や気持ちを変えて、参加意識を持ち一つ一つ行動をしていくしかないと思う。	⑥矢倉	50～64 歳	男性
地域でいろいろなグループが活動されているが参加する人は限られていて、出にくかったり情報が共有できていなかったりで、家にずっとこもっている人もいる。その人達をどう支援していくか、きっかけづくりが必要だと思う。	⑥矢倉	50～64 歳	女性
隣人トラブルも多いこの頃、高齢になるとなかなか近所で仲良くできない。言われたことを気にする。木が邪魔など細かいことが気になり、ストレスをためている方が多い。暇は大敵。出て行く場を作っていかなければと思う。	⑥矢倉	50～64 歳	女性
住民の意識の改革。	⑥矢倉	65～74 歳	男性
健常者と障がい者が共に楽しめる場を提供すること。日頃から近隣とのつながりを大切にすること。	⑥矢倉	65～74 歳	男性
みんながお互い様の気持ちを持つこと。	⑥矢倉	65～74 歳	女性

新聞の記事で、「福祉」とは、「ふ」だんの「く」らしの「し」あわせ、との言葉に心を動かされた。行政やいろいろな組織などがどんなに対策や支援を整えても個々の価値観や感性、心の持ち方、環境の違いで満足感や幸福感は異なる。福祉面においてあらゆる施策を考えて実施しても個人の幸せ度はそれぞれなので本当に難しい問題だと思う。	⑥矢倉	65～74 歳	女性
自分の生活の中で少しでも他の人のために使う時間を作り出すことは、自分のためにも必要だと思う。同じ地域で仲間を持つことは、生きていく力になると思う。	⑥矢倉	65～74 歳	女性
少し普通ではない方の居場所がない気がする。普段、身体は大丈夫だが、仕事を持つことができない、見守りが必要、高齢者も望んでいることがいろいろ。買い物も自分で見て買いたいと思っていて、他人を信用できない。デイサービスに行く方、全く行く気がない方、一人一人違うので、分からない。自分はそうならないようにと思っている。	⑥矢倉	65～74 歳	女性
社会を明るくするという意味での、現実的で住民の協力できるもの、夜の門灯、玄関灯の点灯をお願いしたい。夜の住宅街は思いの外暗い。家族だけでなく地域の子どもの安全のためにも市をあげてアピールしてほしい。	⑥矢倉	65～74 歳	女性
草津市の中での事業にとどまらず、近隣自治体との協力体制も必要と思う。情報公開、共有。	⑥矢倉	65～74 歳	女性
近所の人々との仲間作り。助け合いの気持ち。	⑥矢倉	75 歳以上	男性
住民同士の交流が第一、それを促進する健康づくり・生きがいづくりのために様々なサークル活動に参加を促し、互いが助け合う雰囲気作りが大切だと思う。	⑥矢倉	75 歳以上	男性
近くに相談のできる人がいて、みんなが助け合い、気楽に集まり何でも話し合いのできる場所作り。	⑥矢倉	75 歳以上	男性
閉じこもり高齢者で、体力が弱り転倒などで入院するようなことを多く聞く。グランドゴルフをしているが帰帆島のような 4 コースある大きな場所に行きたいと思っても交通手段がない。福祉バスや豆バスを走らせてほしい。高齢者の運転による事故が多いため、検討をお願いしたい。	⑥矢倉	75 歳以上	男性
相談員の人選について（市役所などに在留している方達）適切か否か、一番大切なことではないかと思う。（相談員としての自覚・口外無用など）。	⑥矢倉	75 歳以上	女性
様々な地域活動が活発になると、それに参加するのが苦手な人もいる。その人達が孤立したり寂しい思いをしないで済むように、個々が無理なく静かに自分らしく暮らせる地域であってほしい。	⑥矢倉	75 歳以上	女性
若い世代の地域への関心が少なく、活動している方々の高齢化が目立つので、関心を持ってもらい。活動に参加してもらえる画期的な方法がないものかと思う。様々な活動において	⑦老上	30～49 歳	女性

いつも同じメンバーでいくつかの案件を受けていると思うことが多い。			
高齢化が加速している。従来形式のイベントやボランティアを集める方法に限界があり、最小限の負担で実施できる新しい方法が必要と思う。	⑦老上	50～64 歳	男性
最小単位である自治会の充実。役員のなり手がない。無関心者が多いので問題を見える化し、具体的な取り組みを行うサポートやリードを行政が真剣に行う。このアンケートが生かせることを切望する。アンケート集計をただけに終わらないこと。各種団体があるが、全ての団体の活動の動きが見えない。	⑦老上	65～74 歳	男性
できる限り多くの人と気軽に話ができるよう、心掛ける人が増えれば世の中変わる。人柄を磨こう。	⑦老上	65～74 歳	男性
宿場まつりなどを長く見て思うことは、住民の求めているものは何かを行政は理解しているのか疑問。毎年同じ行事をしているなど、税金の無駄遣いを腹立たしく思っている。本当にこの町に住み続けたいのか。近頃は急な変わり方に不安が大きくなった。	⑦老上	65～74 歳	女性
高齢化しているのでボランティアができる方ではなく、ボランティアをしてもらう方になることが心配。若い方は生活に忙しく大変だと思い、年寄りには時間があるが体力不足で人に迷惑をかけないか案じている。	⑦老上	75 歳以上	女性
地域で気軽に声を掛けられることが大切。犯罪を防ぐために地域内に散乱ゴミなどが無いキレイなまちづくり。町内の人々が心配りをしていることを印象づける。防災に対する活動の積極性。	⑧老上西	65～74 歳	男性
他人事ではない。自分のこととして考えよう。いつまでも若くない。	⑧老上西	65～74 歳	男性
自分が発言している相手への罪の意識感。自分に厳しく相手に優しく。	⑧老上西	65～74 歳	男性
散乱ゴミの少ないきれいな町。住民同士の声掛けなど、コミュニケーションを活発に行うことで気配りのある町をつくりあげ、犯罪が起これにくいまちづくりに結びつけること。災害に対する体制の拡充など地域の連携を図ること。	⑧老上西	65～74 歳	男性
既存の組織は構成員の偏りがあり、自由な意見交換がしにくい。参加する人は問題意識がある人で参加していない人こそ支援が必要だったりする点が難しいと思う。既存の組織をあてにせず、個人的に地域で老後を支え合うグループを作っている。将来このグループ内で、移動や介護の支え合いをしていく。小さい自主的なグループがいくつもできることが大切。皆で活動を考えている。リーダーを頼らない。皆がリーダーとして活動していく。組織が大きくなると既存のやり方	⑧老上西	65～74 歳	女性

になってしまう。			
もしものときのことを考えて、知識を貯えることも必要と同時に、地域への関心を持って地域の行動に参加したい。新しい生活様式でのふれあい活動は難しい今、孤立する人が増えないことを祈る。	⑧老上西	65～74 歳	女性
日頃から地域で信頼関係を築くための場や、機会が多くあること。但し、その担い手が必要であるが、ほとんどいない。育成が必要である。	⑧老上西	75 歳以上	男性
自己中心主義にならないこと。	⑧老上西	75 歳以上	男性
マンション住まいの人に共通していると思うが、外との交流を閉ざす高齢者が増えているようだ。ますます認知が進むことが懸念される。ひっぱり出すことは難しいが各自治会に方策を委ねることが重要と思う。自治会の在り方研修会実施など。	⑧老上西	75 歳以上	男性
高齢化に備え、公共交通機関の整備が最重要課題と考える。	⑧老上西	75 歳以上	男性
年齢に関係なく、全ての世代が交流できるような企画やイベントの実施。健康への意識が希薄なので、コロナで意識があがっている今だからこそ、健康について若者も盛り上げられるような企画。	⑨玉川	30～49 歳	女性
若者（大学生）がまちのために活動しようという力を、もっと応援していけるような地域づくりをしていく必要が大切だと思う。それが社会に出てから活用され未来が明るくなる。	⑨玉川	30～49 歳	女性
草津市は他の市町村に比べ若い世帯や子どもが多いが、子育て支援（保護者が急用のとき気軽に預かってくれるセンターや自由に遊べる公園）の充実には、東京都内に劣っている。子ども達、若い夫婦育ては草津市の将来を担う事案なので対応を求める。市政を見ている。	⑨玉川	50～64 歳	女性
真新しい何かを求めるより、きれいな言葉だけでなく、中身をもっと濃いものとすべき。言動一致あるのみ。	⑨玉川	65～74 歳	男性
他人と日常的な交流を積極的に行う。	⑨玉川	65～74 歳	男性
地域社会の住民の交流、情報共有をベースにして困ったときの助け合いができるまち。	⑨玉川	65～74 歳	男性
顔の見える地域作りが大切だが、現実には本当に必要とする人の顔は見えず孤立が進んでいると感じる。地域でのコミュニケーションをどのようにとるかを勉強したい。	⑨玉川	65～74 歳	女性
地域によって必要なものが違うと思うので、地域に合う支援をしてほしい。パソコンなどを使わない高齢者も多いと思うので伝達方法を考えてほしい。	⑨玉川	65～74 歳	女性
日頃のコミュニケーションが必要だと考える。あいさつ運動を変えず続けていきたい。	⑨玉川	65～74 歳	女性

小地域の住民同士の交流が活発でなければならないが、イベントなどを計画しても積極的に参加しようという人（実行者）がなかなかいない。住民相互の交流が必要だという意識を持つよう、特に若年層に啓発が必要。	⑨玉川	75 歳以上	男性
困ったときに相談できる人がいて、町内の組織として活動する場がある。	⑨玉川	75 歳以上	男性
自己中心的な考えの人が多過ぎる世の中になった。個人情報の制約が目にあまる。特に市役所が問題。	⑨玉川	75 歳以上	男性
みんなが安心して暮らせるまちづくりのためには、住民のコミュニケーションづくりが最も重要と思う。	⑨玉川	75 歳以上	男性
我が町内では、中高年の健康づくり、老人の集い（グランドゴルフ、カラオケなど）、子育ての若い人達の集いなど役員様方がご苦労下さるが、一人暮らしの人や特に男性の方々に呼びかけてもなかなか参加されないのどどのように呼びかけ、参加してもらえるか。と時々悩む。	⑨玉川	75 歳以上	女性
地域において高齢者が自由に集い、食事できる公的施設があれば最高。	⑨玉川	75 歳以上	女性
今まで自分なりにボランティアをしてきたが、今は骨折して入院中なので続けられるかどうか心配。7 月中には退院できる予定。	⑨玉川	75 歳以上	女性
問 24 の施策がすべて実行されればと願っている。	⑨玉川	75 歳以上	女性
住民に地域活動への参加意識を高めさせることが必要と思う。仕事や日々の生活に追われていて余裕のない人が多い状況では難しいと感じる。	⑩南笠東	50～64 歳	男性
若い世代の参加。	⑩南笠東	50～64 歳	女性
家族の介護を行っていた際、仕事の都合で、夜（21 時）に介護ヘルパーを頼んだときに断られ困ったことがあった。急な用事などができて介護ができない時に頼れるシステムがあればと思っている。	⑩南笠東	65～74 歳	男性
市役所内や出先機関も含め、与えられたノルマをこなすことしか感じられない（特に上層部の人）。もっと住民に意見を聞き、どうすれば解決できるかを考えてほしい。現在のところ信用できる人は少ない。	⑩南笠東	65～74 歳	男性
町内で防災訓練はしているが、梅雨や冬のとき、水やトイレ、会館に入れない人数など、踏み込んだ訓練ができていない。広報でボランティア案内を載せてみては。	⑩南笠東	65～74 歳	男性
昔ながらの隣組、町内会に福祉を頼りがちだが、マンションなどが増加する中、隣組に多くは望めない。町内会も旧来の運営で偏りがあり、必要な福祉が届いていない。行政の新しいシステムが必要だと思う。	⑩南笠東	65～74 歳	男性
コロナ禍により多くの集会（総会、例会）や夏祭り、地蔵盆、	⑩南笠東	65～74 歳	男性

敬老会など子ども達や高齢者が楽しめる行事も中止となっている。地域の行事は多くの人が集まってこそ意義があり感染拡大防止策の趣旨とは反するものであり、地域の世話をする者としては悩ましい。薬が開発されたとしてもコロナウイルスの再発や、異変、次の感染症に対する恐怖心は消えず、行事を「やめても不都合はない、なぜしているのか」という後ろ向きの空気が生まれる。コミュニティ活動や福祉は各行事・活動の継続性が保たれてこそ意味があり、一旦中止するとこの空気を戻して再開するには継続する以上のエネルギーが必要。密や自粛、ソーシャルディスタンスという言葉があまりにも先行して、「ふれあい」という言葉が将来死語にでもなれば福祉活動・コミュニティ活動・防災活動にも影響が生まれる。人と人との接触を避けてフェースシールドして接遇に行くのか。このアンケートにはコロナという文言が一言もないが、取り巻く環境や気持ちが大きく変わってしまうことが予想される中で、このアンケートを分析しても福祉や地域を支える人と受ける人との気持ちの乖離があれば役に立つのか疑問。受け手側との擦り合わせが必要で、その結果も知りたい。コロナ禍が過ぎてからもう一度アンケートをしてはどうか。今回とのアンケートを比較してもよい。			
税金配分順位の適正化、インフラ整備の充実。	⑩南笠東	65～74 歳	男性
近隣の方との共助。誰もが行きやすく、語り合い笑い合える居場所作り。	⑩南笠東	65～74 歳	女性
遠くの親戚よりも向こう三軒両隣のことわざのように、常に近所付き合いを大事にすること。防犯にも災害にも役立つ基本だと思う。	⑩南笠東	65～74 歳	女性
おせっかいではなく、自然な思いやりのできるまち。	⑩南笠東	65～74 歳	女性
地域社会での人とのつながりと自分の足で移動できる健康な身体。	⑩南笠東	65～74 歳	女性
第一交通のりあいタクシーのような会社と契約してほしい。豆バスでは行きたいところへ行けない。JR南草津駅まで40分要する。スーパー、市役所、病院、銀行、JR瀬田駅、南草津など。今の高齢者は同居の親族はなく現役主婦。豆バスに頼って生活するのは無理。高齢者マークを付けて自家用車を運転している者にとって免許証返納後どうすればよいのか。みんな不安をかかえている。日常生活お助けマンも必要。高所釘打ち、掃除など、手軽に頼めるところがほしい。ボタン付けなども目が見えず助けてほしい人達は大勢いると思う。	⑩南笠東	75 歳以上	女性
高齢化の進行に伴う場と、子どもの活動の場。	⑪山田	50～64 歳	男性
まずは地域内での活動、その後公的支援などの充実。	⑪山田	50～64 歳	男性

一人暮らしや高齢者世帯の方々が介護しないといけない家族や自身が転倒などで困ったとき、どこに連絡したらよいか、地域民生委員や町内福祉委員がどこまで理解できるか。迷惑をかけたくない、市役所のどの部署に相談すればよいかなど徹底した情報を発信してほしい。このアンケート結果は、集計して発表されるが、どのようなことに活かされるのか。	⑪山田	50～64 歳	女性
自助と互助。共助、公助に頼らない「近助」に力を入れるべき。	⑪山田	65～74 歳	男性
地域の訓練、研修も必要かと思うが、学校教育でも。	⑪山田	65～74 歳	男性
手助けの必要な高齢者や社会的ハンディのある方のサポートを町民全体でカバーできるまちづくりを目指したい。	⑪山田	65～74 歳	男性
他人に介護をしてもらう社会は考えられない。孫や子どもと同居し、家、命のバトンタッチができる社会を望む。	⑪山田	65～74 歳	男性
福祉に対して受け身の人が多いため、退職して時間のある人は積極的に活動に参加してほしい。参加しやすい仕組みづくりも必要（特に男性）。	⑪山田	65～74 歳	男性
これから考えていく問題だ。今まで全く考えていなかった。	⑪山田	65～74 歳	男性
私の地域は今、支え合いが実現しているが、長男が町外で生活するようになり、町内が老人化している。今後は、町内の結び付きが壊れバラバラになっていく。今現在、高齢化はボランティア活動が活発だが 65～70 歳の年代は非協力で何事も見込みがないと思う。	⑪山田	65～74 歳	女性
気遣い心遣いで周囲をよく見て、手伝いが自然にできる市民でありたい。	⑪山田	65～74 歳	女性
福祉に関して活動したい気持ちはあるが、家の用事、畑の仕事に追われ、最小限しか動けない。町内で与えられた仕事はやっている。	⑪山田	65～74 歳	女性
地域の中でひとり暮らし高齢者（介護認定にかからない高齢者など）が多く、見守りと同時に生活面を見てほしい。	⑪山田	65～74 歳	女性
高齢化が進む現在、高齢者の運転免許証返納者が増し、交通の便がなくなり、家に閉じこもる人が増加している。老人の交通の便を考えるべき。	⑪山田	75 歳以上	男性
隣近所と話す機会などが無い。安心して暮らせるまちづくりをするためには、みんなが気軽に集まれる機会を多く作ることが必要。集まる機会があれば知らず知らずに話もできるようになる。市役所、まちづくりセンター、福祉委員など地域で集まれる、集まりやすい催し物を計画して、地域に入っていくこと。市役所の福祉課で何かをやる、公民館に歩まれでは安心して暮らせるまちづくりはできない。忙しい人でも高齢者でも行ってみたいと思うような計画をお願いしたい。	⑪山田	75 歳以上	男性

自治会離れの多い中、統一して何かをすることが難しいが、若い人も老人も他人事だと思わず考えてほしい。率先してみんなをまとめる人材作りがしたい。	⑪山田	75 歳以上	女性
コロナも一つの災害だと思う。自然災害だけでなく、人的災害についても予防方法、知識を持ち実行していくことが大切と思った。	⑪山田	75 歳以上	女性
日頃から近所付き合いを大切に、困ったときに助け合えるような信頼関係を構築しておくことが大切だと思う。	⑫笠縫	30～49 歳	男性
高齢者の交通手段確保で、ある一定年齢以上の方の公共交通機関料金無料化などが必要だと思う。滋賀では車がないと生活しづらく、そのために別の福祉サービスを求められることも多い。	⑫笠縫	30～49 歳	女性
子育て、介護、この2つが安心してできるよう、子育てに関しては児童館の設置や放課後の子どもの居場所を充実させるなど。介護は、在宅へと勧められているが、在宅は本人や家族の心や命をおびやかすため危険だ。施設や相談窓口の充実、情報弱者を作らないことが必要。	⑫笠縫	30～49 歳	女性
一人暮らし高齢者が安心して生活できるように、日常的に声を掛けたりする人がいたらよいと思う。	⑫笠縫	30～49 歳	女性
気軽にあいさつをしたり、声を掛け合うこと。	⑫笠縫	50～64 歳	女性
いずれ誰もが高齢になる。課題は増える一方だと思うが、アンケートが役に立つとよい。	⑫笠縫	50～64 歳	女性
一人一人のできる事、力を結集する。環境・組織をもっと充実する必要がある。	⑫笠縫	65～74 歳	男性
今回のコロナ禍のように、予期せぬできごとで安否確認も難しく、接触さえ許されない社会が今後起こると予想した対応を求められる。プライバシーを守りながらコミュニケーションを取るには、必要性にせまられ行う行動と普段からの付き合いかたのギャップとは。	⑫笠縫	65～74 歳	男性
行政が先頭に立って、現場や住民に寄り添うこと。ボラティア団体高齢化に対する次世代対策。高齢化という前に、地域生活している人達の不安を解消するための対策を展開すべき。	⑫笠縫	65～74 歳	男性
市長・市議ともに選挙時は福祉の充実とよく言うが、何も提案・改革案が両者からない。できないことを言うな。	⑫笠縫	65～74 歳	男性
介護タクシーを自営しているが、高齢者からの依頼内容がよく分からないことがある。不便をされているのは分かるが、施設の職員やケアマネジャーが連絡したり説明をしてあげてほしい。	⑫笠縫	65～74 歳	男性
他人を思いやる心が第一と思う。	⑫笠縫	65～74 歳	男性
向こう三軒両隣が基本。その中で地域全体としては、まち協、	⑫笠縫	65～74 歳	男性

社協、自治会などが連携して老若男女が集えるイベントの開催を進め、直接の声掛けで、顔が見える交流が深まると思う。回覧だけではなく、個別のちらしも考える。			
新型コロナウイルスのときは、まちづくりセンターが閉まっていた。緊急事態宣言のときこそ、地域の人が何でも相談できる窓口として、開けていないといけないのではと思った。	⑫笠縫	65～74 歳	男性
市内、画一的な施策も大切だが、各学区（地域）の課題にあった施策の取り組みを希望（期待）する。今、都市計画課ではマスタープランの見直しや地域再生計画が取り組まれており、縦割り行政でなく横の連携を図り、統一したまちづくり施策となるよう、せつに希望する。地域福祉に一番大切なものは、コミュニティの形成、向こう三軒両隣であることは、誰もが認識していることであり、現状はコミュニティの衰退、向こう三軒両隣のつながりが全くなく、復元は不可能と思っている。その原因は、幸いにして①草津市には今まで大きな災害がなかったこと②戦争体験の人がいなくなってきたこと③核家族化だと思う。震災などの被災地では復元の兆しが見えた。一方私達の地域は生活環境が他の地域とは違い街中の生活様式とは異なる世界。自給自足、それはそれで素晴らしいものがあるが、若者は親と同居せず、都会にアコがれ故郷を捨てる。地域福祉のマンパワーの育成をお願いしたい。コロナで少し絆ができていたらうれしい。	⑫笠縫	65～74 歳	男性
住民の身近な活動（近所の助け合いやボランティアによる活動）、市やまち協によるエリア単位での事業（情報提供、人材育成、各種イベント）との連携が必要。町内会では役員に勤労者が多く、かつ毎年交代するので取り組みが難しい。	⑫笠縫	65～74 歳	男性
草津市独自の認知症の保険に加入したが、施設の職員は保険の内容など全く把握していなかった。介護に関する情報など、役所だけではなくいろいろな機関で共有してほしい。	⑫笠縫	65～74 歳	男性
一人暮らしの高齢者の方に、いつでも誰でも心配してくれている協力者がいると、精神的に安定する。近所の方の見守りが必要だと感じる。私の地域はしっかりと見守りができている。	⑫笠縫	65～74 歳	女性
地域サロンに気軽に参加できる体制。住民同士の交流。	⑫笠縫	65～74 歳	女性
社会資源は充実してきたが、その分個人の努力がなくなり、他人任せになっているように思う。近所の助けも求めず、深入りもできずのため、何かのときに1つになるとは考えられない。地域に密着したリーダーが力を発揮できるようなシステムが必要。	⑫笠縫	65～74 歳	女性
民生委員の仕事は本来行政が担うべき業務の下請けのように思えることがある。市内各地域の状況を行政はどのように把握し、公表しているのか。市の担当課と住民が話し合える	⑫笠縫	65～74 歳	女性

場を多く持ってほしい。			
お互いプライバシーを尊重しながら困ったときには声をかけられる関係作りを日々の生活の中で少しずつ積み重ねていくことが大事と思いながら暮らしている。地域サロンボランティアはやりがいがある。	⑫笠縫	65～74 歳	女性
町内で最近認知症の方が増加していると聞く。私の住む近所でも数名おられる。市での支援体制が確立されていないと思う。老人クラブの月例会などを利用して説明してほしい。	⑫笠縫	75 歳以上	男性
公民館（従来のもの）活動が今は閉鎖的になっている。一昔前のようにもっと開放的に自由に使えるようにすべき。	⑫笠縫	75 歳以上	男性
総理大臣の国会での答弁態度はどうかと思う。「みんなが安心して暮らせるまちづくり」は本当にできるのか。	⑫笠縫	75 歳以上	男性
地域で健康作りにはげみ、助け合うこと。共同購入や、地域の人と楽しみを分かち合う企業を作ること。高齢者の移動を手助けする方法があればと思う。	⑫笠縫	75 歳以上	女性
相手に対して思いやりの心を持つこと。130 戸の団地（市営）に住んでいるが、高齢者や一人住まいが多い。老若男女が住める団地だと活気もでてくると思うが。	⑫笠縫	75 歳以上	女性
他人への思いやり。今回のコロナのようなことがあると、我先にとマスクや消毒液を買いに走り、物不足が起こった。必要な分だけを買う。分け合えば余る。奪い合えば足りない。	⑫笠縫	75 歳以上	女性
近所同士、気配りややさしさを持つことで、障がいがあったり認知症になっても地域で生きていける。	⑫笠縫	75 歳以上	女性
市、学区、町会のつながりが、事務的ではなく共に助け合う関係。互いに合理化し、無駄を省き、必要なことに有効活用すること。	⑬笠縫東	50～64 歳	男性
みんなが安心して暮らせるだけの経済の充実。経済的に余裕がなければ、誰かを助けてあげることはできない。自分の生活を守るために、日々働くのに精一杯で、行政の責任で助けてほしいとなってしまう。	⑬笠縫東	50～64 歳	男性
三世代が同居できる環境作り。	⑬笠縫東	50～64 歳	男性
地域住民の高齢化が進んでいるので、行政のサービスで足りない部分を地域全体でサポートするのは難しいと思う。行政の若い職員を増やしてほしいと思う。	⑬笠縫東	50～64 歳	男性
近所付き合いが大切。お互いに助け合える関係を日頃から作っておくべきだと思う。	⑬笠縫東	50～64 歳	女性
現状草津市は、住みよいまちづくりのため、公共の仕事に関わる人や一般の人にも努力していると思う。できるだけ私も社会規範を守り、できることは自分で動き、同時に周りの人に目を向け信頼関係が築けるようにしていきたい。	⑬笠縫東	50～64 歳	女性
住民のつながりを作るコーディネーターが必要。役所が行う	⑬笠縫東	50～64 歳	女性

啓発活動だけではまちづくりができないと思う。			
交番の数を減らすことなく増やしてほしい。又常駐する警察官の数を確保してほしい。平日の昼間高齢者ばかりの町は治安、災害の不安が大きい。	⑬笠縫東	65～74 歳	男性
参加しようとする意識の向上のための施策が必要。受け身の構えが充満しており、互助が特に難しい。	⑬笠縫東	65～74 歳	男性
高齢者、外国人、女性、子どもなど社会的弱者の人権を学ぶべき。同和問題への予算を削減すべき。	⑬笠縫東	65～74 歳	男性
誰もが安定した収入がある、働く場所を確保できること。人としての知識を身につける、学ぶ場所の提供（昔の市民教養大学など）。	⑬笠縫東	65～74 歳	女性
福祉、高齢、介護などについて、何でも相談窓口があるとよい。どこに相談してよいか、まずデパートの総合案内のように相談窓口を教えてくれるところ、気軽に相談できるところ。	⑬笠縫東	65～74 歳	女性
個人が思っていることを気軽に話し合ったり、意見として出し合ったりし、互いの解決に向かうよう町内で調整することが必要。互いの意見を尊重することで信頼感が生まれると思う。	⑬笠縫東	65～74 歳	女性
本当に困っている人（仕事を失った人、住居に困っている人、収入が激減した人など）に予算（税金）が使われるよう行政の方達に対処されるようお願いしたい。	⑬笠縫東	65～74 歳	女性
近隣住民との関係、連帯感。	⑬笠縫東	65～74 歳	女性
実際に不安を抱えている人、困っている人の意見や思いが分からないため、想像でしか答えられない。	⑬笠縫東	75 歳以上	男性
日頃からあいさつのできる習慣。	⑬笠縫東	75 歳以上	男性
各人意識の向上の必要。	⑬笠縫東	75 歳以上	男性
高齢化に伴い、世間の常識的なこと（法令遵守）が判断できない人が増加している。そのことが原因で自治会活動が崩壊している。行政の指導を求める。	⑭常盤	50～64 歳	男性
新型コロナウイルス対策や災害の対策などはしていると思うが、個人には伝わっていない。一人暮らしの方や高齢者、小さい子どものいる方は、どこに避難するのか伝えておく必要があると思う。草津は災害が起こらないと言っている人が多いが、いつどこで何が起きるか分からない。町内会、学区、市役所が連携し、隅々まで行き渡るよう詳しく説明し、安心して暮らせるまちづくりをしてほしい。	⑭常盤	50～64 歳	女性
自治会の研修やイベントを開催されても、役員と一部の住民だけ。かなりのパワーで市民一人一人の意識を向上させる手立ては何か。自身は障がいのある娘をきっかけに地域とのつながりを大事にしているが、努力の積み重ねだと思う。	⑭常盤	50～64 歳	女性

待機高齢者をなくす。特別養護老人ホームが必要。家では介護できない。	⑭常盤	50～64 歳	－
自宅での生活が困難になったときに、すぐに入所できる介護施設を近くに造ってほしい。	⑭常盤	65～74 歳	男性
人間関係が大テーマ。市職員も各学区のセンターなどに常駐し福祉業務にあたらなければ、絵に描いた餅となる。	⑭常盤	65～74 歳	男性
互助の精神は理解しているが、心身とも健康で経済的な余裕がなければ互助には限界があると思う。また災害時の避難場所での感染症対策も互助ではどうすることもできない現状。公助での万全な対策を希望する。	⑭常盤	65～74 歳	男性
自分自身が高齢になり身体的問題は必ず起きる。本来は他人事ではなく全ての人に関わることで理解、活動することが大事だと思う。	⑭常盤	65～74 歳	男性
若者や子育て世代、高齢者が地域活動に楽しく参加できる町内会にすること。若者リーダーの育成。	⑭常盤	65～74 歳	女性
困った時に相談でき、助けてくれる人が身近にいること。高齢になると相談するということをしてはいけないのか。定期的に見守り、声掛けをすべきではないか。	⑭常盤	65～74 歳	女性
95 歳の義母がいて、元気だが一日中テレビを見ているのでデイサービスに行った方がよいと思うが、介護認定も受けていないので無理。民生委員も市からの訪問もない。家族がいると高齢者で元気な人は放ったらかしなのか。自分達夫婦も高齢者の仲間入りなので、一日中一緒にいると疲れる。介護認定がなくても気軽に行けるところがほしい。料金もあまりかからず、食事付き、自分で一日のメニューを考えながら運動したりできるところがよい。	⑭常盤	65～74 歳	女性
自分の生活を築いた上で、その時点で自らが手伝いできることを各自で行う。	⑭常盤	75 歳以上	男性
一人暮らし高齢者でも、日々地域での安心・安全に暮らせるために、①スーパー（食料品・日用品）②医療機関・銀行や郵便局③交通網。この①②③がセットで充実しないと日々の生活に支障がある。便利な地域により便利に、不便な地域により不便になっていく現状施策を早急に改革してほしい。	⑭常盤	75 歳以上	女性
共助、公助から、自助、互助へ変換が図られていることは多角的に考えると当然であると思うが、自助、互助で生活をするための社会的資源が明らかに不足している。その充足を急ぐ必要はあると考える。	－	30～49 歳	男性
障がい者の相談支援体制の充実が急務だと思う。	－	30～49 歳	男性
住民同士が程よい距離感を保つこと。	－	30～49 歳	男性
現状を把握し、今何をすべきかまずは考え行動することが大切だと思う。	－	30～49 歳	男性

安心できる居場所作り。個々いろいろとニーズがある中、人と人とのコミュニティが築ける場など。	-	50～64 歳	女性
他者を理解できる人間になればお互い様の意味が分かると思う。学ぶ機会を多く作っていけばよい。	-	50～64 歳	男性
公的支援はある程度充実してきているように思う。マンションに 20 年以上住んでいるが、住民同士の関わりが無く顔見知り程度。親しく話ができるのは 10 年に 1 度輪番で当たる町内会で役員をした時くらい。個々の関わりが活発になれば安心して暮らしていける。3 年前に、高齢者の地域サロンを立ち上げようと準備し、3 回開催したが、2 名しか集まらず続けることができなかった。70 歳以上の方が 100 世帯中 20 人以上もいるのにも関わらず。	-	-	-
近所付き合いをよくし、町内行事に参加する。	-	-	-
地域がマンションと一戸住宅が同じで、災害時避難場所が遠く、高齢者が多いため不安。若い子育て世帯が多いので、町内活動の参加が少ない。	-	-	-

V 調査票

「地域福祉」に関するアンケート ～ご協力をお願い～

皆様におかれましては、日頃から市政の運営に格別のご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

現在、草津市では、草津市社会福祉協議会をはじめ皆様と共に、みんなで地域社会を支え合いながら、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるまちの実現をめざして、福祉の総合的な取組を推進しております。

このたび、福祉の総合的な取組やあり方を示す「第3期草津市地域福祉計画」の計画期間が今年度で終了することにもない、次期計画策定の基礎資料とするために、日頃から福祉活動に取り組んでいただいている皆様の福祉に関するお考えやご意見をおうかがいすることといたしました。

ご多用の折、誠に恐縮ではございますが、趣旨をご理解いただき、皆様のお考えやご意見をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

令和2年6月

草津市長 橋川 渉

- この調査は、まちづくり協議会関連団体、学区社会福祉協議会、民生委員・児童委員協議会、町内会、社会福祉関係団体などの関係者を対象に実施しています。
- 回収された調査内容は、計画策定に関する目的以外に使用することはありません。
- この調査は無記名のため、個人が特定されることはありません。

《ご記入に当たって》

- ご回答は、令和2年6月現在の状況を、各所属団体のお立場でご記入ください。
- それぞれの設問について、当てはまる番号に○をしてください。
- 「その他」を選ばれた場合や最終設問の「自由記述」については、お考えやご意見を記入してください。

ご記入いただいた調査票は、**令和2年7月3日（金）までに**

同封の返信用封筒に入れて、切手を貼らずにポストに投函してください。

《お問い合わせ先》

草津市健康福祉部 健康福祉政策課 健康福祉政策係

電 話：077-561-2360 FAX：077-561-2482

メール：kenkofukushi@city.kusatsu.lg.jp

★「地域福祉」と

「地域福祉」とは、一人ひとりが地域社会の一員であることを認識しつつ、助け合い・支え合いの精神のもとに安心して暮らせるよう、「自助」・「互助」・「共助」・「公助」を包括的に連動させ、地域の福祉課題の解決に取り組むことです。

■ 「自助」・「互助」・「共助」・「公助」について

「自助」とは

日常生活において、自分でできる範囲のことは自分で行い、住民一人ひとりが豊かな生活を送るために努力すること。

「互助」とは

近隣の人との日頃の声かけや見守りをはじめ、ボランティアや住民組織での活動など、住民同士の助け合い・支え合い。

「共助」とは

介護保険、医療保険などの相互負担による社会保険制度を活用し、必要に応じて様々なサービスを受けること。

「公助」とは

税の負担による公的サービスのことで、高齢者・障害者・生活困窮者などの生活保障や権利擁護などのこと。

■ 求められる「地域福祉」の姿とは？

○ 少子高齢化や家族形態の変化にともない、一人ひとりが抱える生活課題も多様化しています。これらに対応するには、個人の努力や行政による福祉サービスだけでは不十分であり、地域で暮らす住民が身近にある様々な福祉ニーズに関心を寄せ、地域全体で課題の解決に取り組むことが求められています。

○ 社会構造や人々の暮らしの変化を踏まえ、制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」・「受け手」という関係を超えて、地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながり、持続可能な地域を創造していくことが必要です。

○ 「自助」・「互助」・「共助」・「公助」を、時代に即した形で有機的・総合的なネットワークとして結び付け、そのネットワークの力によって福祉課題を解決していくことが、求められる地域福祉の姿であると言えます。



1. あなた自身のことについて

問1 あなたの性別をお答えください。(1つに○) ※答えたくない場合は無回答で構いません。

1. 男性

2. 女性

問2 あなたの年齢（令和2年6月1日時点）をお答えください。(1つに○)

1. 18～29 歳

2. 30～49 歳

3. 50～64 歳

4. 65～74 歳

5. 75 歳以上

問3 あなたが草津市内で行っている活動（所属）をお答えください。

（当てはまる番号すべてに○）

1. まちづくり協議会関連団体

2. 学区社会福祉協議会

3. 民生委員児童委員協議会

4. 町内会

5. 障害者関係団体

6. 介護サービス等福祉関係事業所

7. 子育て支援関係団体

8. ボランティア活動団体

9. その他（ ）

問4 あなたのお住まいの地区（小学校区）をお答えください。(1つに○)

1. 志津小学校区

2. 志津南小学校区

3. 草津小学校区

4. 草津第二小学校区

5. 渋川小学校区

6. 矢倉小学校区

7. 老上小学校区

8. 老上西小学校区

9. 玉川小学校区

10. 南笠東小学校区

11. 山田小学校区

12. 笠縫小学校区

13. 笠縫東小学校区

14. 常盤小学校区

15. わからない ⇒町名を記入（ ）町（ ）丁目

16. 草津市以外 ⇒自治体名（ ）

↓
「草津市以外」にお住まいの方は、9 ページ（問20）にお進みください。

問5 あなたは草津市でお住まいになって何年になりますか。(1つに○)

1. 5 年未満

2. 5～10 年未満

3. 10～20 年未満

4. 20～30 年未満

5. 30～40 年未満

6. 40～50 年未満

7. 50 年以上

2. 地域とのかかわりについて

問 6 あなたの近所づきあいの程度はどのようなものですか。(1 つに○)

1. 日常から親しくつきあいをしており、困ったときに助け合える
2. 立ち話などをする程度のつきあい
3. 会えばあいさつする程度のつきあい
4. 近所づきあいはほとんどしていない

問 7 お住まいの地域にどの程度の愛着を感じていますか。(1 つに○)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. とても愛着を感じている | 2. どちらかという愛着を感じている |
| 3. どちらかという愛着を感じていない | 4. 愛着をまったく感じていない |

問 8 お住まいの地域の住民活動において、住民相互のまとまり具合を、どのように感じていますか。(1 つに○)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 大変まとまりがある | 2. どちらかというまとまりがある |
| 3. どちらかというまとまりがない | 4. まったくまとまりがない |

問 9 地域における助け合いや支え合いの活動を活発にするためには、どのようなことを充実すべきとお考えですか。(○は3 つまで)

1. 家庭・学校・職場などで、助け合いや支え合いのこころを育むこと
2. 日頃から近所や地域で助け合える信頼関係を築くこと
3. 地域の人同士が交流できるイベントなどを、市や市社協が支援すること
4. 介護やボランティア活動の方法などの研修を、市や市社協が行うこと
5. 地域にボランティアなどの活動拠点や組織を整備すること
6. 若者や子育て世代が地域に住み、地域活動にも積極的に参加してくれること
7. 福祉に関する情報が住民に行き届くこと
8. その他 ()

問 10 近所や地域のつきあいやかかわりにおいて、困っている方がいれば手助けしたいと思うのは、次のうちどれですか。すでにされていることがあれば、それも選んでください。（当てはまる番号すべてに○）

1. 高齢者や障害者宅などのゴミ出しなど
2. 子育て家庭の子どもを一時的に預かること
3. 高齢者や一人暮らしの方などの話し相手や相談相手になること
4. 独居高齢者宅などへの日常の安否確認や見守り
5. 買い物の代行
6. 買い物や病院への送迎
7. その他（ ）
8. 特にない

問 11 近所や地域のつきあいやかかわりにおいて、特に求められていると感じられることは、次のうちどれですか。（当てはまる番号すべてに○）

1. 家事や身の回りのことを手伝うこと
2. 子どもを一時的に預かること
3. 話し相手や相談相手になること
4. 家庭内介護のサポートをすること
5. 日常の安否確認や見守りをすること
6. 買い物の代行をすること
7. 災害時の安否確認や手助けをすること
8. 買い物や病院への送迎をすること
9. その他（ ）
10. 特にない

3. 地域や福祉に関する参加状況や考えについて

問 1 2 次の項目について、あなたの参加状況や活動状況をお答えください。

(当てはまる番号それぞれ1つに○)

項目	よく している	時々 している	あまり していない	ほとんど していない
ア. 福祉に関する研修会やボランティア講座、セミナーなどへの参加	1	2	3	4
イ. 地域の福祉課題を話しあう会議や懇話会への参加	1	2	3	4
ウ. 小地域福祉活動 ^(※) への参加	1	2	3	4
エ. 地域住民に対する福祉活動への勧誘や情報の発信	1	2	3	4

※「小地域福祉活動」とは？

小地域（町内会等）を単位とするサロン活動や見守りなどの福祉活動のことです。

問 1 3 次の項目について、あなたはどのようにお考えですか。

(当てはまる番号それぞれ1つに○)

項目	はい	いいえ	どちらでもない
ア. 日頃から、近所や地域で助け合いや支え合いを行うべきだと思う。	1	2	3
イ. 災害時や緊急時には、近所や地域で助け合いや支え合いを行うべきだと思う。	1	2	3
ウ. 地域への関心や参加意識を高めるため、地域の福祉課題や活動などの情報を共有すべきだと思う。	1	2	3
エ. 地域の福祉活動には、他人事でなく「我が事」として積極的に参加すべきだと思う。	1	2	3

4. 災害への備えや災害時の対応について

問14 あなたは、地震や風水害、火災などの災害に対して、どのような備えを行っていますか。（当てはまる番号すべてに○）

- | | |
|---|---------------|
| 1. 家具などの転倒防止 | 2. 避難場所や経路の確認 |
| 3. 災害時に必要な食料・飲料の準備 | |
| 4. 災害時に必要な備品（ラジオ・懐中電灯・携帯コンロなど）の準備 | |
| 5. 地域の防災訓練などへ参加すること | |
| 6. 災害時の連絡方法や集合場所などを家族・親族で話しあうこと | |
| 7. 近所や地域における助け合いの方法や要配慮者 ^{（※）} を確認すること | |
| 8. 常日頃から、テレビ・新聞などで災害対策の情報を得ること | |
| 9. ハザードマップなどで居住地域がどれくらい危険なのかを確認すること | |
| 10. その他（ | ） |

※「要配慮者」とは？

高齢者、障害者、乳幼児、妊婦など、災害時において特に配慮を要する方のことです。

問15 あなた自身が災害にあわれたとき、主にだれ（どこ）を頼りにしますか。
（○は3つまで）

- | | |
|------------------------|---------------|
| 1. 家族・親族 | 2. 近所の人 |
| 3. 友人 | 4. 自治会などの地域組織 |
| 5. 市役所 | 6. 市社会福祉協議会 |
| 7. 消防署・消防団 | 8. その他（ |
| 9. 頼りにする人や頼りにできるところはない | ） |

問16 あなた自身が災害にあわれたとき、どのようなことを不安・心配に思いますか。（○は3つまで）

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1. 家族・親族のこと | 2. 近所の人や友人のこと |
| 3. 近所の要配慮者のこと | 4. 発生した災害に関する情報 |
| 5. 避難所での生活 | 6. 所有する家・自動車・土地など |
| 7. 避難所などへの避難経路 | 8. 災害に対応できる知識 |
| 9. その他（ | ） |

5. 不安や悩み、相談先について

問 17 要介護者や生活困窮者などの方が、不安に思っている点や悩んでいる点はどこにあると思いますか。（当てはまる番号すべてに○）

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1. 日常の金銭管理（日用品の購入など） | 2. 身体的なこと（病気や障害など） |
| 3. 契約のこと（サービス利用など） | 4. 家や土地などの財産管理や処分 |
| 5. 相続や遺言 | 6. 自身や家族の介助・介護のこと |
| 7. 地域での人間関係 | 8. 仕事に関すること |
| 9. 子育てや教育のこと | 10. 日常の交通・移動手段のこと |
| 11. 経済的なこと（世帯の収入など） | |
| 12. その他（ | ） |
| 13. 特にない | |

問 18 悩みや不安があるとき、要介護者や生活困窮者などの方は、だれ（どこ）に相談すると思いますか。（当てはまる番号すべてに○）

- | | | |
|-------------------|----------------|--------------|
| 1. 家族・親族 | 2. 近所の人 | 3. 友人 |
| 4. 職場の人 | 5. 医師・看護師 | 6. 介護サービス事業所 |
| 7. 民生委員・児童委員 | 8. 市役所の相談窓口 | 9. 市社会福祉協議会 |
| 10. 保健センター | 11. 地域包括支援センター | |
| 12. その他（ | | ） |
| 13. 相談できる人や相談先はない | 14. 相談しない | |

問 19 あなたは、お住まいの地域について、どのようなことを不安・心配に思っていますか。（当てはまる番号すべてに○）

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1. 地域の高齢化の進行 | 2. 交通・移動手段が不便なこと |
| 3. 町内会や地域活動への参加者の減少 | 4. 地域の担い手の育成 |
| 5. 近所や地域のつきあいの減少 | 6. 空き家の増加 |
| 7. 独居高齢者や高齢者のみ世帯の増加 | 8. 緊急・災害時の体制 |
| 9. 世代間交流の減少 | |
| 10. その他（ | ） |
| 11. 特にない | |

《問20からは、すべての方におうかがいします》

6. 福祉への関心や福祉活動について

問20 あなたは福祉のどの分野に関心がありますか。(当てはまる番号すべてに○)

1. 子どもに関すること
2. 高齢者に関すること
3. 障害者（児）に関すること
4. 生活困窮者（就労や収入、住まいなどに困っていて支援が必要な人）に関すること
5. 上記「1.」～「4.」以外の支援を要する人に関すること
6. ボランティア活動に関すること
7. その他（ ）

【問20-1は問20で「6. ボランティア活動に関すること」に○を付けた方のみ】

問20-1 ボランティア活動に参加したいと思いますか。(1つに○)

1. 是非、参加したい
2. 友人などが一緒なら参加したい
3. 時間があれば参加したい
4. 参加しない
5. すでに参加している

問21 あなたが福祉に関する仕事や活動をするなかで、やりがいや楽しさを感じるのはどんなときですか。(当てはまる番号すべてに○)

1. 誰かの助けになったと実感するとき
2. 誰かに喜んでもらえるとき
3. 誰かに頼られたり相談されたりするとき
4. 地域や団体の人と一緒に活動していると実感するとき
5. 地域や誰かの課題を解決できたと実感するとき
6. 地域や団体の人と目標に向かって努力しているとき
7. ひとつの仕事や活動をやり遂げたと実感するとき
8. その他（ ）
9. 特にない

問 2 2 あなたが福祉に関する仕事や活動をするなかで、困ることや苦勞することは何ですか。（当てはまる番号すべてに○）

1. 活動場所が少ない（ない）
2. 活動を進めていく上でのリーダーがいない
3. 活動に関して相談をする相手がいない
4. 活動に必要な研修・学習機会が少ない（ない）
5. 活動に必要な情報が少ない（ない）
6. 活動に必要な資金が足りない
7. 活動に参加するための交通手段がない
8. 住民の理解や協力が得られない
9. 所属する団体内での人間関係がうまくいかない
10. 活動がマンネリ化している
11. 活動の運営方法がうまくいかない
12. 他の団体との情報共有や連携が難しい
13. 継続的な福祉活動が難しい
14. その他（ ）
15. 特にない

7. 福祉に関するしくみや制度について

問 2 3 次の名称や内容についてご存じですか。（当てはまる番号それぞれに○）

質問	名称も内容も知っている	名称は知っているが内容は知らない	名称も内容も知らない
ア. 地域包括ケアシステム	1	2	3
イ. 生活困窮者自立支援制度	1	2	3
ウ. 成年後見制度	1 ⇒ ※ 問 23-1 も ご回答ください	2	3
エ. 社会を明るくする運動	1 ⇒ ※ 問 23-2 も ご回答ください	2	3
オ. 地域共生社会	1 ⇒ ※ 問 23-3 も ご回答ください	2	3

【問23-1は問23「ウ。」で「1 名称も内容も知っている」に○を付けた方のみ】

問 2 3 - 1 成年後見制度には主に法定後見制度と任意後見制度がありますが、このうち「任意後見制度」があることを知っていますか。(1つに○)

1. 知っている 2. 知らない

【問23-2は問23「エ。」で「1 名称も内容も知っている」に○を付けた方のみ】

問 23-2 再犯防止のために、何が必要だと思いますか。
(当てはまる番号すべてに○)

1. 犯罪をした人を支援する相談窓口を充実すること
2. 犯罪をした人が、仕事に就く機会を充実することや協力雇用主を増やすこと
3. 犯罪をした人が、就業できるように学習支援や資格取得の支援を行うこと
4. 犯罪を地域の問題として捉え、地域ぐるみで再犯防止に向けた支援をすること
5. 犯罪をした人が、刑期を終えた後などに住むことができる場所を提供すること
6. 社会の一員としての自覚を高めるため、犯罪をした人にも地域活動やボランティア活動に参加してもらうこと
7. 犯罪をした人への支援ネットワーク（病院、学校、福祉施設などの機関や民間団体で構成）を作ること
8. 住民に対して、再犯防止について広報・啓発活動をする
9. その他（ ）
10. 特になし

【問23-3は問23「オ。」で「1 名称も内容も知っている」に○を付けた方のみ】

問 23-3 「地域共生社会」の実現に向けて、地域の様々な団体の連携をさらに深めたり活発にするために、必要な取組は何だと思いますか。
(当てはまる番号すべてに○)

1. 地域包括ケアシステムの推進・拡充
2. 共生型サービスの推進・拡充
3. 各地域における福祉に関する課題の共有
4. 本人・世帯の属性や状況にかかわらず受け止める「断らない相談支援体制」の構築
5. 本人・世帯の状態に合わせた就労支援、居住支援など、社会への参加支援
6. 多世代交流や多様な活躍の機会や役割を生み出す地域づくり・支援
7. 個人や世帯が抱える複雑で多様化した課題を制度の狭間に落とさない取組
8. その他（ ）
9. 特になし

8. 福祉に関する施策全般について

問24 みんなで地域社会を支え合いながら、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるまちを実現するために、どのような施策や取組が必要だとお考えですか。（当てはまる番号すべてに○）

- | | |
|--|------------------|
| 1. 在宅福祉サービスの充実 | 2. 施設サービスの充実 |
| 3. 相談窓口や相談員の充実 | 4. 福祉に関する情報提供の充実 |
| 5. ボランティアコーディネーターや生活支援コーディネーターなどの人員の拡充 | |
| 6. 手当や助成など、住民に対する経済的支援の充実 | |
| 7. 施設や交通機関などにおけるバリアフリーの推進 | |
| 8. 日常の交通や移動手段の確保 | |
| 9. 地域活動や福祉活動への公的支援の充実 | |
| 10. 地域活動や福祉活動を担う人材の育成 | |
| 11. 地域の方がどなたでも気軽に集い交流できる場の整備 | |
| 12. 健康づくりや生きがいづくりの場の提供 | |
| 13. 住民同士の活動や交流が活発になる施策や支援 | |
| 14. 福祉に関する教育や研修の場の提供 | |
| 15. 災害に備えた体制の整備と住民の防災意識を向上させる場の提供 | |
| 16. その他（ ） | |
| 17. 特にない | |

問25 「みんなが安心して暮らせるまちづくり」のためにはどのようなことが必要だと思いますか。あなたのお考えやご意見をご自由にお書きください。

アンケートへのご協力ありがとうございました。

「草津市地域福祉計画」策定のための
地域福祉に関する意識調査

報告書

令和２年７月

企画・編集 草津市健康福祉部 健康福祉政策課 健康福祉政策係